京城日報

十六日夕刊

京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社 發行所
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介

◎佛首相の非講和宣言

佛蘭首相ブリアン氏は下院に於て敵國は何れの部分に於ても未だ決定的勝利を博せるにあらず狡猾なる獨逸は聯合國を離間せしめんが爲めに講和の提議を爲せるに過ぎず佛國は結局勝利を得る事確實なり故に佛國は聯合國間の協約に背きて講和の提議に應ずるが如き事斷じて之無しと宣言せり（巴里電報）

◎永久の平和を得る迄
英佛兩相の電報交換

十二日ロイド ジョージ氏及ブリアン氏は不動の決心を以て一層活潑なる努力を爲し最後の勝利永久の平和を得る迄共同の敵と戰ふべき旨の電報を交換せり＝ベルン發十五日某所著電＝（東京特電）

◎墺國內閣の更迭

アムステルダム來電＝維也納よりの報道に依れば墺國內閣は辭職せりアレキサンデル、スピツツ、ミユルレル氏は目下新內閣組織中也（紐育電報）

◎熊特使參議院通過

去る十五日北京參議院會議に於て熊希齡氏遣日特使の件を可決せり（北京電報）

◎講和と石井外相

石井前外相曰く道迴獨逸の講和提議は芝居に非らずして困憊其極に迷せる結果にて最も眞面目なる提議なる可し（東京電報）

◎市場落附く
郵船株刎返る

獨逸講和提議の一電忽として傳へらるゝや一時大動搖を見んとせし吾國の市場も其後漸く落ち附き日本郵船株の如きも千圓方昂騰し辛うじて大勢を刎ね返へせり（東京電報）

◎藏相親任式

十六日午前十一時宮中に於て左の通り新任式を行はせられたり

任大藏大臣
大藏次官 勝田主計

同時に左の通發表ありたり（東京特電）

內閣總理大臣兼大藏大臣元帥陸軍大將伯爵 寺內正毅
免兼官

◎大藏次官任命

十六日附辭令を以て左の通り任命ありたり（東京特電）

大藏省主計局長 市來乙彥
任大藏次官

橫濱稅關長 西野元
任大藏省主計局長

◎釜屋少將著鮮

新任朝鮮總督附武官海軍少將釜屋六郎氏は十六日午前十時三十分釜山發京城に向ふ（釜山特電）

◎櫻井臺銀頭取歸任

櫻井臺灣銀行頭取は十六日朝門司歸港の郵船信濃丸にて歸任す（門司特電）

◎長尾中部鐵道局長

長尾新任中部鐵道管理局長は十六日午後七時十分下關發列車にて東上すべし（門司特電）

◎小笠原伯東上

小笠原長幹伯は十六日午後七時十分下關發列車にて東上すべし（門司特電）

新任大藏大臣勝田主計氏

◎李公總督訪問

李埈公殿下は十六日午後二時長谷川總督を官邸に訪問過日總督の同公邸訪問に對する挨拶を述べられたり

◎李王太王訪問

李王同妃兩殿下は十九日午前十一時昌德宮御出門德壽宮に御成李太王殿下へ年末の御挨拶ある筈なり

◎軍司令官往訪

秋山軍司令官は十六日午後二時三十分總督官邸に長谷川總督を訪問せり

□獻上煙草仕上

挽き澁りの御思召を奉じ總督府より獻上す可き第三回御料煙草露西亞式細卷煙草二千本は十一月二十日以來中樞院內專賣課分室に於て岡田技師監督の下に從業員數名の手に依り謹製中なるが葉選刻上其の他の準備作業は勿論葉詰も大半終了したれば十六日製品檢査を行ひたる上箱詰に著手し十九日全部の仕上を了へて長谷川總督の檢分を乞ふ可く二十日專賣課員奉持東上の途に就き總督府東京出張所の手を經て宮內省へ獻納の筈なり

◎警務總長張宴

古海警務總長は十五日午後六時より朝鮮ホテルに朝鮮貴族閔李王職長官小宮同次官尹贊侍等八十餘名を招待晩餐會を開けり

◎釜屋武官著期

總督附海軍武官釜屋少將は十六日朝釜山上陸直ちに京釜線列車にて同日午後九時南大門驛著入京せり

◎僧籍整理通牒

神社寺刹規則の發布以來鮮內の寺刹は著々整理の實を擧げ來れるが各寺刹に屬する僧尼の籍牒を明確ならしむるは寺刹の管理上最も重要の事項なるを以て山縣政務總監は十六日附各道長官に宛て各管內の寺刹住持に對し僧籍牒を編製せしむ可き旨通牒を發せり

◎水越氏送別會

北海道拓殖銀行頭取水越理庸氏の送別會は十五日夜花月に開催當夜は荒井度支部長官渡邊高等法院長、石塚東拓總裁、白水參議長、岩本地方法院長其他官民有力者百數十名出席し鈴木穆氏發企人を代表して送辭を述べ水越氏謝辭を以て答へ盛會裡に十時散會せり

◎水越頭取發期

入京中なる北海道拓殖銀行頭取水越理庸氏は十九日午前八時三十分南大門驛發汽車にて退京の筈なり

◎鮮銀總裁著期

美濃部鮮銀總裁は三島理事會根秘書を隨へ十六日午前神戶を出發せりとの電報同行に到達したり豫定の如く十七日午後九時南大門驛著の筈

◎貴族館忘年會

朝鮮貴族一同は十六日午後一時より朝鮮貴族會館に於て忘年會を催せり

◎輕鐵の申請

慶報の小野田セメント會社は中和郡破邑に創立經營すべき平壤セメント會社專用の爲め工場敷地の馬達山麓より美林迄（約四里）輕便鐵道を敷設する事に決し十四日を以て警務部に認可申請の手續に及びたるが同線は美林に於て鐵道本線に接續せしむべき工程設計なりと（平壤）

◎製肥工業創立進捗

平壤の林長太郎氏外數名の發起にかゝる既報の朝鮮製肥工業株式會社の創立事務は其後著々として順調に進捗し株式の二千株中千百株は發起人にて引受け四百株は平壤居住內鮮人の應募あり其殘餘五百株は京城其他各主要地の實業家及び大阪神戶並に九州地方の製品取引先きに於て持株の希望あるに付き創立事務委員の林氏は商用の序を以て右募集勸誘に工場百般の設備を兼ね去月廿一日出發したるが前記各地方にては孰も旺盛なる盛況を以て募株滿了したるに付き同氏は十七八日頃歸壤すべく同時に發起人會を開く筈なれど年內も頻りに押詰まりたれば明春匆々に讓る事とし定款案は既に發起人會に於て作製濟なれば愈々新春と與に其成立を見るなるべしと（平壤）

◎南浦依然滯穀

商船運賃問題解決未了の爲め獨り鎭南浦は他港の順調なるに拘らず豫期に反して配船捗々しからず支流の結氷期愈々切迫せるため廻著愈々多くなり今や停滯米穀十五萬叺に達し埠頭壯觀を極めつゝあるが內最も多きを占むるは籾の五萬玄米の二萬大豆の三萬小麥の二萬五千等なり（鎭南浦）

◎講和說と群山

十三日正午獨逸國は聯合國に對し講和を提議せりとの入電に接したる群山米界は多少の動搖を來たし左無きだに軟弱なりし相場は卽座に二十錢方の低落を告げ然かも當日午前の市場にては四千叺の取引ありたるも午後は講和說入電と共に形勢觀望となり取引皆無なりしが米價と講和問題に關する二三當業者の意見を聞くに講和問題を傳へらるゝと共に米價の低落は一時の現象にして講和問題の因を爲せる米價の低落は一時的人氣作用に止り直ちに回復せらるべしと樂觀し居れり（群山）

◎江景の滯米

江景に於ける現在停滯米は三萬叺以上に達し尙ほ益々滯米を加へつゝある狀勢なるが各地運輸の不充分なる影響を受けて十一月中に於ける各地への仕向米數量は群山へ水路一萬叺を輸送し釜山其他へ鐵路三千叺を輸送したりと（群山）

◎馬山寄港毎月一回

大阪商船會社南鮮沿岸定期船の馬山寄港を來る一月より中止する趣は既報の如くなるが斯くては同地貿易商人の取引上に尠なからぬ損害を醸すべきを以て同地實業家協議の結果陳情委員を大阪同本社に派遣し且つ又同社釜山支店長宮地氏の出張を求め種々交涉の結果同支店長も大に斡旋する所ありたる爲め本社に於ても同地方の事情を酌量し從來毎月四回寄港を廢し更めて毎月一回寄港せしむることに決定したる由（釜山）

◎西鮮鑛業所成立

西鮮鑛業の中心地點たる平壤に於て鑛山事業を經營し若くは鑛業に投資し居る人々中の三二有志が去月下旬來協議の上各人個々分立して小規模の鑛業經營を爲すよりも寧ろ各人の所有する物質的並に精神的の力を併合して大規模の計畫に出で鑛業の大發展を期するは個人の利益たるのみならず國家の進運に資する所多大なるべく其前提として先づ鑛業組合の如きを設立し着々理想の實現に進むべく之れが主唱の下に同業者間に勸誘したるに素より反對のあるべき事柄にあらず何れも一議に及ばず悉く時勢の要求に順應し居るに同意を表し取り敢へず同意者二十餘名を以て去月二十二日夜三根旅館に第一集會を開きたるに結局主催者側の意見たる、鑛業の組合を組織するに決し規約起草委員として一柳、辰巳、長谷川、柴田、森本、久保、松井の七氏を選擧し更に右委員は廿七日夜三根旅館に委員會を開き規約の起草を始め創立事務に就き種々協議を遂ぐる處ありたるが次いで去る十三日夜七星館に總會を開きたるが出席者二十五名にして委員提出の組合創立に關する原案を異議なく是認し爰に名稱を組合西鮮鑛業所とし組合員は一人毎月金十圓を醵出積立て之れを組合資金として事業を經營すべく先づ第一著手として鑛業分析、鑛業鑑定、鑛業賣買及び紹介を開始すべく更に役員を選擧したるに所長長谷川六右衛門、幹事一柳村五郎、辰巳彥三郎、森本義高、久保順吉、佐川潔治、柴田鈴三、毛利辰次郎、松井民次郎氏等當選したり尙ほ事務幹事若干名を選擧し實務に當らしむべく目下の組合員は二十五名なれど遠からず三十名に達する見込なりと（平壤）

◎露貨高値を告ぐ

朝鮮銀行入電十五日ハルビンに於ける露貨相場は百圓對百八十八留五十哥にして之れを前日に比すれば一留半の高値を示せしが斯く高低は平常有り勝ちの事とて勿論講和提議の影響には非ざるべしと

◎小田氏の露國視察

志岐商業事務所主任小田榮氏は露國商業視察の爲め十六日午後九時四十分南大門驛發北行列車に搭乘出發先づ西伯利亞各地の視察を遂げ次いで歐露へ向ふ可し

◎訂正

本紙朝刊一面所載『大山公國葬と訓話資料』と題する記事の前文六七行目に跨る『生徒をして』は八行目の『當日は』の上に入る可き者なるを以て茲に訂正す

平壤

▲向井檢事長出發 平壤覆審法院檢事長向井巖氏は既報の如く十五日午後一時三十九分發列車にて東京に向け出發したるが停車場構內は工藤長官鳥山法院長市川旅團長を初め多數官民の見送り盛なりし殊に法院側判檢事及篠田一部長大橋商業會議所會頭其他の有志は黃州又は沙里院迄見送りたり▲賣出初日景氣 平壤繁榮會の聯合賣出しは十五日早朝より開始したるが今年は一般經濟界の好況に伴ひ人氣著しく引立ち朝來各商店は紅白の旗幟及び提灯松飾等を爲し殊に商品の陳列に意匠を凝らし樂隊にて町廻を爲さしめ一般に活氣を呈せり尙同日午後三時十分泉町の瀧澤きみゑと云ふ婦人は一圓五十錢の買物を爲し抽籤の結果一等に當選し二十圓の白縮緬一反を得たれば繁榮會に於ては初日に一等を出したるは緣起良しとて喜び居れり

鎭南浦

▲鐵道乘降客 一月以降十一月末迄の鎭南浦驛乘降客は六萬九千七百人に達し昨年同月迄の累計五萬八千人に比し實に一萬一千人を增加せる割合なるが此原因は一に市況の活潑を暗示せるものならずんばあらず而して本年に於ける乘降比較を觀るに降客の乘客に超過せる數二千餘人に達したるが畢竟道は住民の增加を語れるものと云ふを得べきか

開城

▲發著貨物 十一月中開城驛發著の主なる貨物は左の如くにして以て當地の一斑を知るに足るべく殊に藥用白蔘發送の激增は實に驚くべき者あり

品名	噸數
發 明太魚 野菜 金巾 綿布 綿糸 マツチ 唐辛 白蔘 手品 綿 [illegible]	三六 一五 八四 二四 四二 一四 七一 三 [illegible]
著 綿布 金巾 砂糖 明太 鹽 栗 米 鮮 白米 籾 石油 綿 [illegible]	二三 六二 九五 二四 九九 六五 七七 一七 八四 二四 [illegible]

▲聯合賣出 十日より開城市內重なる商店は聯合して年の市景品附大賣出を開始し市中はボツ〳〵活氣を呈し來れり▲御遷宮 屢報したる如く開城神社の建築工事は著しく進行し既に神殿及び社務所は完成し殘れる拜殿も十七日に上棟式を行ひ不日全部竣工すべき豫定なるを以て十九日午前十一時より御遷宮並に鎭座祭を執行さるゝ筈にて晝間より夜に亙り花火の打上等あるべきを以て多大の盛況を呈すべし▲尾蔘 本年の白蔘尾蔘の輸出は實に空前の事にて尾蔘の如きは在品殆んど僅少と成り生産當時一斤七八十錢なりし物今日にては一斤一圓廿錢內外に騰貴せり

仁川

▲稅關忘年宴會 仁川稅關にては來る二十五日忘年宴會を催す由▲日運丸遲延 日運丸は十六七日頃入港の筈なりし處十九日に遲延すべく積込豫定數量は六千石なり▲仁川驛滯貨現狀 仁川驛に於ける滯貨の現狀を聞くに總數三千五百噸中內地行大豆は千八百六十九噸にして鮮內貨物としては石炭八百噸雜貨四十噸塊山金鑛行鐵器三百噸セメント百四噸マツチ九噸砂糖四十八噸紙五十噸鹽二百七十噸煉瓦十八噸煙草二十八噸木材十四噸石油六十九噸にして殆んど同驛構內に於ける收容力に餘裕無く此れ以上收容する場合は忽ち作業に支障を來す狀態にあり

淸州

▲忠北米檢查開始 忠淸北道にては屢報の如く道外移出玄米及び白米の檢查を行はんため過般準備をなし當局の認可指令を待ちつゝありしが愈十四日認可の報に接したれば愈々十五日より道內芙江驛外六驛にて產米檢查を開始することゝなりたり▲靑年會例會 淸州實業靑年會にては十三日午後八時より本願寺布敎所に於て十二月例會を開催し席上法院支廳山田檢事の講話あり終りて會務打合せをなし同十一時散會す▲義士會開催 去る十四日夜は赤穗義士の本懐を遂げたる當夜に相當するを以て淸州在住官民有志三十餘名は同夜六時より三餘俱樂部にて義士會を開催し席上義士に因める軍事講談及び筑前琵琶の彈奏等あり打入當夜に腹鼓を打ちて當時を追想し義士の逸話など物語りて十一時過散會したり

天安

▲道長官歡迎會 忠南天安の有志は今回新任の上林忠南道長官が唐津郡へ事務視察の爲め出張途中天安に十五日一泊せしを幸ひ官民合同の歡迎會を天安旅館に於て開催したるが頗る盛會なりき因に上林道長官は唐津瑞山方面を視察したる上二十日歸天し一泊二十一日鳥致院に向ふ豫定也と

釜山

▲第二回義勇艦備船 釜山澤山商會と露國義勇艦隊代理店ホームリンガ商會との契約に成れる同艦隊の傭船ツエール號は既に去る十四日橫濱に向ひたるが第二回はニヂニーブゴロド號（三千三百六十七噸）を回航せしむる筈にて來る二十二日釜山に入港し米穀を積載し前同樣內地へ回航せしむる筈なりと▲府協議會議案 釜山府にては來る二十日頃府協議會を開催する筈なるが議案は工事の請負力の供給及び物件の賣買貸借に關する條例等にして又府立病院長招聘に關する打ち合せを爲すべしと▲商議評議員會 釜山商業會議所に於ては來る二十日午後一時より臨時評議員會を開會する筈なるが諸件の報告ありたる後二三件の附議案ありと▲下端道路竣成期 釜山下端間國道改修工事は過般來慶南道廳に於て實測を終へ既に其筋の認可を得たるを以て本月十六日東萊府廳に於て工事請負入札を行ひ明年四月迄に竣成せしむる筈なりと

人事消息

▲中村精七郎氏（迎賓樂）十六日朝入京天眞樓へ
▲橋本滿德氏（商賃業）十六日朝退京
▲長谷部憲兵大尉 同上
▲富家正義氏（專賣課開城出張所長）同上
▲岡今朝雄氏（土木課長） 土木事業視察の爲め十五日鎭南浦、平壤及び新義州へ出張
▲岩崎通威氏（鎭海砲兵大隊附大尉）十六日午前入京荒井旅館へ
▲木尾虎之助氏（代議士）十五日午後安東方面へ向け出發

迎新總督

鳥兎
山河草木春更に回る日の
静軒
多日照らす軒々の旗道狹めたり

◎佛國新內閣

佛國に於ては先般下院に於ける決議の結果首相ブリアン氏は內閣の改造に就き考慮中の處十二月十三日左の通り發表せられたり＝外務省著電（東京特電）

▲內閣議長兼外務大臣 ブリヤン氏 ▲司法大臣兼文部大臣 ヴイヴイアニ氏 ▲內務大臣 マルヴイー氏 ▲大藏大臣 リボー氏 ▲陸軍大臣 クオーテー將軍 ▲海軍大臣 ラカーズ氏 ▲軍器彈藥大臣 アルベール、トーマ氏 ▲運搬兵站大臣 エドワール エリオ氏 ▲國民經濟大臣兼農商務大臣 クレマンデル氏 ▲植民大臣 デウーメルグ氏 ▲國務次官兼軍需品製造大臣 ルイ、ルーシユー氏 ▲運輸大臣 クラヴエル氏 ▲軍事衛生大臣 ゴダール氏

△軍事會議員 ▲ブリアン氏 ▲リオーテー將軍 ▲ラカーズ、トーマ氏 ▲リボー氏 ▲佛軍總司令長官政府軍事專門顧問軍事會議顧問 ジヨツフル將軍 ▲北及東北司令長官 ニヴエル將軍

◎英國陸軍總數五百萬

英國陸軍は更に百萬人の兵員を增加し總員五百萬人となれり（紐育電報）

◎露國外相の新任

露都來電＝帝國會計檢査院長ポクロウスキー氏は外務大臣に任せられたりと（倫敦電報）

◎ヴイラ米國侵入聲明

墨西哥ヴイラ將軍は米國侵入を聲明せり（紐育電報）

◎正式通牒無し

獨逸の講和提議も熊希齡氏の特使決定も未だ正式の通牒に接せずと政府當局は言明せり（東京電報）

◎杉村書記官著鮮

北京公使館書記官杉村陽太郎氏は十六日朝高麗丸にて釜山著同十時三十分發列車にて北京に向ふ（釜山特電）

◎南滿製糖成立

曩て設立進捗中の南滿製糖株式會社は創立總會を開き愈々成立せり（東京電報）

●輕く疲れた身體を一等寢臺車の柔かい絨に凭せて
ピアノから離れるこ淋しくて〳〵
と、小倉女史、黒目勝ちの涼しい眼をパチ〳〵させて語る

女流音樂家の第一人、ピアニスト小倉末子女史が十六日朝南大門着の汽車で入京すると云ふので途中まで出迎へる

◆水原邊で ボーイに聞いて見るとまだ寢臺車にとのことに適當の時機を見計つて刺を通じて見るとどうぞ此方へとの案内につれられて通されたのが一等寢臺車の十二號室『大變御厄介をかけまして有難うございます』と先づ優しい御挨拶、小倉さんが赤ちやんの時代から影の形に添ふやうにして米國や獨逸までも遙々と小倉さんの

◆音樂修業 のために同行して行つたと云ふ令兄小倉庄太郎氏夫人も側に居て末ちやん〳〵と二十五歳の女史を子供のやうに可愛がる『米國から歸りましたのは今年の四月で夫から音樂學校の方へ出ることになりました今度京城の知人の方からお招きを受けて參ることを御引受は申したもの丶折惡しく身を害めて居ましたのでどうかとも心配して居ましたが幸で大したこともございません連絡船が荒れましたので

◆姉も私も 少し疲れが出ましたけれど此朝鮮のすが〳〵しい空氣を吸うと不思議に快復したやうでございます』と素顔ながら雪のやうに美しい末子さんは黒目がちの涼しさうな眼をパチ〳〵させる、『私が今日のやうになりましたのも全く此處に居ります姉のお蔭でございます八ツ位の時分から樂器に觸ることが非常に好きでございまして聞いた頃から

◆ピアノを 彈くと云ふやうになりました十二歳頃には餘りに私がピアノを彈きたがるものでございますから兄や姉が樂器に障つてはと申しまして私を樂器の置いてある部室に入れぬやうに鍵を下したことさへありました、けれども私は一日でも一時間でもピアノの側を離れてはさても〳〵淋しくて仕方がありませんので兄や姉の

◆怒るのも 聞かずに鍵を切らしたがりますので遂に姉も癪を切らして獨逸や米國に居ます時分には毎年の夏二三箇月間程位ピアノのない山の上の避暑地に連れて行かれることになつて居ました』と今迄は工のやうであつた若き音樂家の顔には櫻色の血が溢れて來て何んとも云へぬ緊張した氣分が見へる

▽御前演奏の名曲

『ピアノを習ひ始めてから十何年間隨分苦しい時がありましたが一曲を覺え込んで自由自在に鍵盤を動かすことが出來るやうになつた時の

▽嬉しさ は何とも比喩やうがありません、今日迄覺込んで終ひましたのは三十曲位もございませうがこれからもづつと續けて習つて行きたいと存じます、先づピアノの練習は曲にもよりますが

▽一曲に ついて三四箇月も練習すれば一寸位は彈けることになります、けれども人樣の前に出て彈きますまでは半年や一年の練習の要りますやうな難かしいのもございます

▽巧拙が 岐れるのでございますから手首や指先の運動には充分の注意が必要なのでございます』と小倉さんは白魚のやうな左右の手を出して觸はらして見せる成程外見は一寸女の

▽優しき 手とばかり見ねても筋肉は男にも勝る發達をして居て掌も指の叉もなか〳〵に固い、『今度演奏致しますプレリユード及フユーク(バツハ、リツツト作)を除きましては何れも

▽素人の 方でもよくお解りになる曲のみで殊に先達御前演奏を致しましたキヤープリース(サンサン作)バラーデ(ショパン作)などは最も一般の方の

▽喜ばれ ます曲でスプレリユード(デブユシー作)のやうな新作物も面白からうと存じます』好きな音樂のためには命も惜まぬ小倉孃はピアノを戀人として

▽十五年 の長き間ピアノを戀人として華胖の愛を捧げて來た、そして其甲斐あつて今日のやうな譽ある名を殘すやうになつた行先なる一生を音樂の

▽神に獻 げたいと云つて居る若きピアニストの上に幸よ裕なれ

ピアニスト來る【南大門驛にて】

●小野遞信技師の注目す可き發明
日英兩國政府へ特許出願
端艇自動安全離脱の裝置

遞信技師工學士小野錦彌氏は頭腦の緻密を以て聞ゆる人なるが今回海運界にとり注目すべき一の發明をなしたり聞く所によれば該發明は『テルオ式端艇自動安全離脱裝置』と稱し其の技術の考案せしは本年四月中頃にて爾來研究に研鑽を諾ね遞信省特許局に

▲特許を出願 せしは五月五日の事なりしが十一月八日附特許の指令あり此程同技師の手許に達したる由該裝置の内容及び効力の詳細は詳らかに知るを得ざれど軍艦上に吊り上げ居る所謂搭載艇若しくは普通汽船に搭載せる救命短艇並に小蒸汽の如きを火急の場合海上に取り卸さんとする時何等の裝置なければ間々前部若しくは後部のみ先づ水中に突入し危險を釀す事少なからず然るに小野技師のテルオ式離脱裝置は右の危險を絶對に防ぐものにて水に觸るゝや否や端艇は自動的に離脱するものなり

▲水高壓力を利用 し或は動力を起さしめ自動的に安全にボートを卸す裝置を外し外三の効果もあり結局艦載水雷艇を急速に取り卸して敵艦を襲はんとする時若くは最近頻々行はるゝ獨逸潜航艇の襲撃を受けし場合早急乘客及び船員のボートに移乘を安全に行はしむるものにて現下の如き戰時には頗る重要視すべき發明なるもの丶如し小野氏は模倣者防止の關係上

▲英國政府の特許 をも得べく目下手續き中なる由尚ほ該裝置は一艘に付時價約百圓内外にて之を完成し得べしとの事なるも技師は未だ學理上先づ遺憾なきに近きも其の實驗は未だ之れを行はず相當改善工夫の餘地あるべければとて多く語らずされど氏の昵近者は戰時中可成速に其の實驗をなし又製作を公にし世上に其の効力を及ぼさしむべしと勸説しつ丶あるに付何れ近く何等かの形式により世に出づる事となるべし

●躑躅に櫟 十三萬本
三時間の山火事

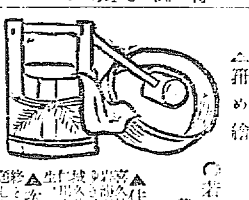
江原道麟蹄郡々内面上東里大曜開谷の雜木林より十二月三日午後七時頃發火したるより所轄麟蹄憲兵分隊にては附近住民數十名を指揮して消防に努めしも遂に面積三十餘町歩の松百餘本櫟十三萬本を燒失して同十時鎭火せり原因は多分薪取りの焚火の不始末より發火したるものならんと

●スチンソン孃の夜間飛行

過回來朝せる女流飛行家カザリン、スチンソン孃は十五日夜東京に於て夜間飛行二十分間を試みて大成功を收めたり(東京電報)

●西湖津驛前の米、小豆五十石
を燒き拂つた火事

咸南西湖津停車場構内所在咸興錦町濱田運送店西湖津出張所所管の山積せる穀類より十日午後十時半頃出火したる騷ぎに西湖津警察署員總出にて附近住民百數十名を指揮し消防に努めしも米、小豆五十石を燒失し同十一時頃鎭火せり三十三叺(合計四百二十一圓位)は燒失したる人なる朴某は穀を以て風避の壁を擴へ上部はカバアにて蔽ひあるものゝ中に叺を下敷にして火鉢を置きたる儘附近の方に穀物見廻りに出でたる後に烈風に煽られたる火が遂に大事に及びたるものなりと



讀者文藝(一等には五十錢の商品券を呈す)

△再め繪

○若水(一等) 龍山 武貝富美子

▲佳作 [illegible]

▲次回來年は之にて終りとす [illegible]

●一家鏖殺

大阪府下西成郡鷺洲村濱田宗太郎(四十)は十五日夜九時四十分門前にて銃殺され家内にては妻、息子、娘等慘殺せられ其狀酸鼻を極む犯人搜索中(大阪特電)

●續けさまに、拳銃二發
軍刀を拔いて押入つた鮮人強盜

江原道麟蹄郡南面於論里李基陽(六〇)方に十二月四日午前三時頃覆面した鮮人強盜三名侵入し二名は軍刀を携へ居り内一名は同人に對し來客ありや否やを訊ねたる上俄かに携へゐたる拳銃を二發射撃して家人を恐怖せしめ家人三名を悉く縛り上げて強打し基陽の前頭部、左目、左手首、後頭部、兩肩等に治療廿日を要する重傷を負はせ現金五十圓衣類雜品數點(十五圓)を強奪して逃走したり逃走の際基陽に對し十二月九日夜南面上水里の峠路に金二百圓を持參すべしと棄臺詞をなして姿を晦したりと

景氣付いた
地方の歳末
▽賑やかな釜山・盛んな賣出し

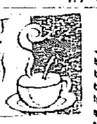
年内餘すところ僅かに二週間、釜山の各商人連は非常に緊張して來て、例年の事ながら呉服店、履物店、雜貨商其の他の景品附の派手な聯合賣出しに次いで洋服屋、割引大賣出しが始まつ

□滿市滿街海岸近い 頃末に至るまで店頭の裝飾、旗、提灯の華かな色彩に景氣のいゝ鐘の音が響うてゐる、呉服店は長手通りに景品抽籤所を設けて美しい孃さん二人が控へるばかりの愛嬌と共に景品を渡し、各店は紅白の布に國旗を揚げ、中には道を跨いだ大門などを作つて電飾を點じたりしてゐる、呉服物の値段は産地高値のため三四割方暴騰してゐるにも拘らず賣行きはいゝ氣配でそれが十四五日を經た二十日前後には具體的になつてくるだらう、一般の嗜好は上流向は女物で御召、男物で大島、結城、中流以下では銘仙類が最も多く縮緬を

□昨年より少し地味 の方、色柄では矢張り茶がかつたもの、娘向きには紫紺、茶系統のもの、派手な地模樣に目が留まるらしく長襦袢は縮緬、友禪、綸子等は輸入除外の品不足である洋服地は歐洲輸入原料の品不足と一般の生地五割以上の高値に困れる縮絨地もの羅紗メルトン等は自然注文も少なく黒色、紺色系の縞綾ものを勸むる模樣で中値段の注文多くメルトン海絲紗のフロツクは四十圓以上、背廣スコツチ地にて三十圓内外の所最も注文多く各店共稍々品不足に惱み洋雜貨は原價は例年より三四割高の品は値で自然

□贅澤品は賣足惡し 日常用品の帽子シャツ靴下等は相應に賣行き履物類は二十四五日にならねば買出氣立たぬが本年は一般に需用の多い見込、味に表附の行の兆があり桐台前部表上等物二圓内外直穿き五十錢以上の駒下駄一圓二三十錢より二圓此邊が最も賣れさうだ果物蔬菜及蜜柑は本月の入荷多く十三日迄に食料品市場に搬入された數は石油函入約一千個、四つ函木場物千五百個計二千五百個にして四つ函上品一圓九十錢並品一圓六十錢石油函入上品二圓並品一圓七十錢、樽(廣島、九州産)バナ、籠入二百五十個にして一籠二圓五十錢玉葱(北海物)十〆目一函三圓五十錢乃至四圓、白菜(青島物)十圓内外にて毎日二三噸の入荷あり

□一般に入荷薄の爲め 昨今でも一割方の高値だが愈々押詰れば二割方の騰貴を見るべく地產蔬菜は總て例年よりは幾分高値を示してゐる、魚市場は例年なれば昨今から正月向の鯛伊勢鰕其他の入荷があるが本年は此等の水揚少なく自然騰貴の傾きがあり年末には品不足の爲めに突飛の相場を顯すだらう、而して漁場では鯛は近頭相場の漁獲があつても多くの漁場で下關から出張して直買をする爲め相場も内地好況の結果當地より幾分高値に引取られてゐるからである(釜山支局)



▲英國の外務省では人の日本通を二十何人雇ひ込んで手に入つた日本の新聞雜誌其他の日本通の類を翻譯させて居るが流行の先生方も『粋を利かす』『野暮』『其前』などの文字に打突かると八丁も閉口して翻譯の見當が付かねさうな如何な語學の先生もこんな文句迄は說明して數へぬと見ゐる▲神戸へ外國船が着くと船の中から一斗樽を擔ぎ出してドシ〳〵關所の前を走り拔ける、お役人がバラ〳〵と取り捲くと、またバラ〳〵と何かゞ降る▲其れで兎も角一斗樽は無事に納まるところへ納まるが、お蔭で一合足らずのお銚子一本一圓二十錢▲八千代が菅藷伯と結婚したといふ記事が出ると、あるところの食堂會議で萬龍の恒川君も死んだし、ほんたの鹿島も振はないし、菅藷伯も何うせ今に永いことはあるまいと、癡氣黨が噂り〳〵

●潛り獵師 慶北浦項尾形伊勢西伍長に捕へられ銃砲火藥取締規則違反として金泉支廳にて尾形は三[illegible]より七圓にて鷹一羽を購ひ十二月八日農所面月谷洞柿山の麓にて鷹狩を[illegible]覺し大邱地方法院檢事局に送らる(大邱)

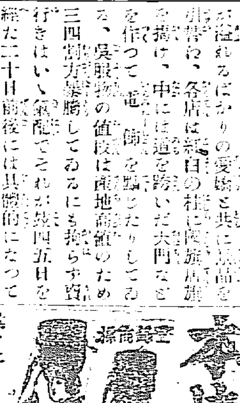
●連絡船上乘客 十二月十五[illegible] 三等[百十四名] 龜年丸、陸定沐、谷本喜代一、今井田眞助、谷河想一郎、愛川庫一、同補一、同ふみ、同みつ [illegible]

(讀者文藝課題及募集規程) [illegible]

國家葉規程 ▲用紙は端書又は郵便 の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事▲贈賞は一[illegible]

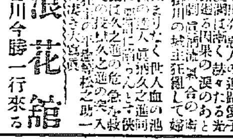
天氣 曇り時々晴 十二月十七日 [illegible]

〈演藝案内〉
大正館 櫻井町 電話八七三 十二月十二日より提供の三大寫眞 ○喜劇[illegible] ○探偵大活劇『呪の水車』[illegible] ○新派大悲劇『血の池御殿』[illegible]
浪花館 明治町 電話二六〇 浪花節吉川今勝一行來る [illegible]
黄金館 早川町 電話二六三七 [illegible]


椿香油 各宮妃殿下及宮内省御用 各博覽會にて金銀牌受領 ◎注意 定價 二十錢、卅錢、六十錢、一圓 髮を黒く長くつやを出し さら〳〵として髮のぬけるを防ぎあかつかざる事妙なり

小生今回轉地療養の爲内地へ出發の際は寒氣の折柄態々御見送被下御厚情感謝に不堪候乍略儀紙上を以て御禮申上候
十二月十五日 向井巖

△山縣五十雄 村上唯吉共著 富の道しるべ 價十五錢 郵税二錢 京城太平通 振替三〇〇番 京城日報社代理部

▲眼鏡▼

九金細ツル 六圓五十錢 九金一匁三分 八圓 十八金細ツル 八圓七十錢 十八金一匁七分 十一圓六十錢 二十金一匁八分 十三圓 二十二金二匁 十五圓 米國製金張玉付 乙三圓五十錢 甲四圓五十錢 銀縁一圓三十錢以上二圓五十錢迄 赤銅無地八十錢以上二圓五十錢迄 金次二圓五十錢以上五圓迄 本ニツケル 用各種 四平 米國特製玉 硝石 獨逸上玉 一圓六十錢 メニスカス玉 三圓 クリ山玉 一圓五十錢 サツク類十錢以上 各眼科病院指定眼鏡製作 各地方より御注文の節は代金引替にて直ちに送附申上候但送料實費 京城本町一丁目郵便局前 中村眼鏡店 電話千百十七番 振替京城三百六番

贈答品 進物用好適品 補血強壯 人參葡萄酒 名譽金牌受領

▲仙臺平袴地 ▲羽二重斜子御紋附地 ▲セル袴地 以上實物見本進呈 ▲羽織裏地 文展額模樣 他多種多樣 仙臺大町 藤崎呉服店 振替口座東京一七九〇

平壤 栗卸 京城南大門外 池田商會 電話七五九番 振替口座二四七番

保險金領收廣告 一金五百圓也 右は日淸生命保險株式會社へ被保險者古賀只平昨年三月死亡に付請求致候處迅速且つ懇切なる支拂を受候 大正五年十二月十四日 全羅北道全州 保險金受領者 古賀タ子

メリヤス類 靴下製造卸商 各種雜貨 京城南大門通り一丁目 瀬戸商店 電話二七一七番

廣島名産 山まゆ織 新發賣品 廣島市大手町 高橋光時商店 振替大阪三〇六九

廣告 今般擧國岡山市某家秘藏の支那及日本書畫骨董珍器數百點を左の方法に依り競賣仕候間何卒下見の上御光來被下度右御案内申上候 成行競賣方依頼相受け候條
十二月十六日下見 十七日正午より糶賣 場所 南山町 原金旅館樓上 札元 佐々木聚古堂 電話壹壹五 新田谷伊之助 電話六武

事總宗旭（三一）にも自分の銃を持たせ各地を持歩し十二月三日金泉郡南面…山洞にて發砲したるを金泉分隊中…平明述（三九）李…文（三一）韓…（三九）金…萬千（三一九）李德又（三一）等は共同して許可にて大頭田町某質屋より英國製五連發十二番銃を買ひ入れたる事發…郡慶山面居住大工鈴木筆太（三九）は無…十二月一日金泉郡鳳山面禮知洞鄭某

朝鮮使節を驚かした佩川先生

唐音で漢詩を誦し

今秋大元帥陛下九州行幸の砌り舊佐賀藩の碩儒草場佩川先生に贈位相成りたることは豫て人の知る所なるが其の令孫に當る草場謹三郎氏（總督府總務部通譯官）は這回郷里佐賀縣多久に於て先生の五十年祭を營みて聖恩の忝けなきに感泣して歸京せり。談に曰く『私の祖父草場佩川は曾て

▽▲文政の三博士 と呼ばれた古賀精里先生に就て朱子學を學び後ち閑叟公に召し出されて當時陽明學の盛んであつた佐賀の國風を矯めた人で佩川詩集四冊には二萬餘の詩を遺して居ります、時代は今から百年ばかり以前天明七年に生れた人で當時長崎に來た著色南畫の支那人沈南蘋に就てその畫風を繼承し後ち幕府の聖堂に招聘されて應せず明和三年高齢八十八歳を以て歿したのであります、祖父佩川が文名を天下に馳せたのは曾て朝鮮の使節と

▽▲對馬に會して 其の見聞せることを書物にかいた時であります當時祖父が對馬で書いた書籍などはまだ朝鮮の方々に殘つて居つて其の中の『對禮餘藻』と申す本は今でも李王職の博物館に納められまた書畫の一部は前鮮銀の水越理事が所藏して居られました、元來徳川時代の日本と朝鮮との國交は對馬の朝鮮館といふので行はれたもので其處には漢籍の造詣な京都五山の僧侶が二人以酊庵といふのに詰切り兩國の

▽▲國書を交換し たもので國交の談判を要する際には兩國の使節が此所に會したのであります、然るに佩川の廿五歳の年に幕府は聖堂の小倉公を正使とし古賀精里先生を副使として對馬に遣し當時聖堂の生徒中より選抜した祖父と樋口緇川とを隨行させたのであります、其の時佩川は豫て長崎で學んだ唐音即ち支那語を以て漢詩を朗讀し謂ゆる當時のハイカラであつたので痛く朝鮮の使節を驚かせて居るやうです而して自著の『津島日記』には文章と共に沈南蘋に學んだ畫書を以て朝鮮の地圖から船から使節の衣服食器に至るまで

▽▲一物も餘さず 記して居ります、またその日々の出來事を記した『隨臺日錄』と公務の餘暇鮮人使節と筆談した詩文問答集の『對禮餘藻』とは當時のお國の能辯に喧傳されたものといひます、そして朝鮮の朱子學の大家李退溪から來た文集なども遺つて居ります、遺稿には『毛儒の購』（詩經を日本の今樣に直しこれに本草圖解を附けたもの）『田野一簞』『四書五經の佩川點』『佩川詩集』『互居の湯』などがありますが殊に『老拙心帖』と申すのは郷里に於いて

▽▲春秋二回農夫 に巡回講義した記錄であつて平易な文章と納諭とがなか〱面白い教訓を示して居ります、また支那の鴉片戰爭に鑑み日本も洋夷に備へよと叫むだ『片炮除灰』といふものもあります、これ等は皆絶版せよとの遺言により後に刷刻は致しませぬが昨今徳川侯などの教育に熱心な方がチョイ〱多久に來訪されるやうです、其の他頼山陽との交友及び山陽の先考春水先生に入門を所望されたことゝ

▽▲吉田松陰先生 が入門されたことなどいろ〱な逸話があります、それに私の郷里では京城の文廟に等しき日本最初の聖堂があつて毎年釋奠の催しもあります——尤もこれは明末の支那人が持て來たことに起因しますが——現に角道回は故人も地下に感泣することゝ思ひます終りに九州豆田在の廣瀬淡窓先生の後裔も祭典に列席して呉れました

牛肉の食べ方

西洋料理は別として、我邦では牛肉と云へば煮て食べる、これが一般の習慣となつてゐますが實際煮て食べたのでは眞實の牛肉の味が分らない

◇ロース、或はランなんかと云ふ柔らかい所を稍く厚味に切つて醤油につけ網で焼いたのでなければ牛肉の風味を損ぜずに味はふ事は出來ない相です、尤も一般に賞るのが醤油になつてゐるから、皮肉を云はずに甘く煮て食べる方法を傳授しませう

◇それには先づ肉よりも何よりも炭火と割したとが肝腎です、炭を云へば炭は備長（樫の木の炭）であり度い、備長の特色は上が灰になつても最初の火力と少しも違はず平均に燃え續けるから良いので

◇火力が強ければ牛肉が硬く味が無くなるし、火力が弱ければ肉に含んだ血が出て了ふから不可い、肉の血これが滋養でもあり、又甘味も此處にあるのです

◇割したは如何も家でやつてみても牛屋の様に甘味く行かないとは能く耳にする所ですが、それもその筈各店ではこれが家傳の秘密になつて決して他に製法は漏れぬ様にしてあるが、大體に於て上等の白味淋に上等の醤油か牛々に割り

◇それにザラメ或は極上の白砂糖乃至見布等を廿口辛口の各その仁の嗜好に應じて適度に混じて御覧なさい、玄人跣足ですよそつとお教へ申します

◇それから雜物ですが、焼豆腐、玉葱、糸昆布等をコテ〱入れるのは通で無い、日本葱のしやき〱齒切れの良いのに限る。尤も松茸の季節には松茸を入れるのが一番結構だ、詰り雜物を入れ過ぎては雜物に汁を吸ひ取られ肝腎の牛肉の甘味を奪はれて了ふからです

◇肉の切り方は薄目に切つて伸ばして出すと感じは綺麗で好いが、矢張り一分五厘乃至二分位の厚味が欲しい、加之、肉の目の通りに切ると硬くなるから目を横に切ると柔かくなります、是等も最後注意すれば好のです

△柚子みそ 白味噌を裏漉にかけて鍋に入れミリン砂糖を加へてよく〱煉り火よりおろす時柚子の皮をわさび卸しにて卸したると少しくまぜ和せ柚子を釜の如くに上三分の下八分位に割り中身を抜き去りて其中に煉りみそをつめ元の如くふたをして柚子がやはらかになるまで蒸す小皿用としてよし（青木ぼつ）

◎十日會納會 農商工部職員を網羅せる十日會は一同の忘年會に兼ね十日午後一時より白木に納會を開催、小原長官以下各課長高等官、判任官等百數十名參會せり

◎小田氏歐露視察 京城志岐組商業部主任小田榮氏は這回歐羅巴露西亞視察の目的を以て十六日午後九時四十分南大門出發北行せり歸京期は明年四月上旬の豫定なり

◎久水夫人上京 今回外事課長に榮轉したる久水新事務官の令夫人は愈々十六日上京したるが同夫人は十二時四十分發にて仁川驛を發したるが府吏員、和田女學校長、稲田、河野、廣瀬、市橋、壬生、松元ベンチツト等の紳士淑女多數の見送りありたり

神社とお寺と教會

◎西本願寺（若草町）十七日午前十時より日曜學校、午後七時より日曜講演あり 講師は明如上人

◎龍山西本願寺（元町二）十六日午後七時より土曜講話、明如上人の御逮夜につき說教講話あり

◎東本願寺（南山町）十七日午後七時より信者大會日曜講話あり

◎開教院（本町三）十七日午前十時より日曜學校、午後七時より日曜講演ある由

◎妙心寺（長沙洞）十七日午前十時より御詠歌の提唱午後一時より觀音講及び說教あり

◎曹洞宗別院（若草町）十七日午前九時より日曜學校、例會、午後七時半より觀音講あり

◎曹谿寺（大和町三）十七日午後一時より禪學講話に供養會あり

◎聖公會（南米倉町）十七日午前九時より日曜學校、同十時より聖餐式說教『施洗者ヨハネの使命』一色司祭、猶ほ午後七時半より晩禱及び傳道說教『未だ知られざる神』同司祭

◎龍山日本基督教會（漢江通）十七日午前九時より日曜學校同十時半より禮拜說教『耶穌の所在』午後七時半より傳道說教『建設時代』伊藤牧師

◎京城基督教會（長谷川町）十七日午前九時半より日曜學校同十時半より井口牧師の『孤獨の不幸』說教、午後七時半より同牧師の『興味ある人生觀』說教

◎救世軍の集會 十二月十六日（土曜）午後七時本町四丁目三十銀行前にて『悔ゆる所なきか』石島大尉、十七日（日曜）午後七時半『[illegible]』石島大尉夫人

◎メソヂスト教會（旭町二）十七日午前九時半日曜學校開校式同十時半禮拜說教『精神界の飢饉』藤岡牧師午後七時半より傳道說教『基督教一班』同牧師

◎京城基督教會（南米倉町）午前十時半朝拜說教『將來り理よ』山本牧師、午後七時夕拜說教『使徒保羅』同牧師

商況

東京公債直取引（特電）

十五日前場（前日との比較）

甲	九三、八〇
乙	九三、八〇

大阪三品特電

大阪期米特電

十五日後場		
十二月限	—	—
一月限	八三、八〇	八四、五〇
二月限	八一、六〇	八二、四〇
三月限	八一、二〇	八一、七〇
四月限	八〇、四〇	八一、四〇
五月限	八〇、〇〇	八〇、四〇

下關期米特電

十六日前場	
當限寄付	一六、五九
中限寄付	一六、八二
先限寄付	一七、二一

止め —

十六日前場	當限	中限	先限
寄付	一五、六〇	一六、四二	一七、二九
高値	一五、七〇	一六、四〇	一七、二三
安値	一五、五八	一六、三八	一六、九五
止め	—	一六、三三	一七、一七

雜報

●內地製粉見送り 頃來諸稍步調なりし內地製粉は弱運の講和提議にて氣勢喪失して市場は一時停頓狀態に陷りたるが是迄外粉の高値を示せるは無論小麥の世界的大凶作に因るとするも歐洲小麥の對外輸出不可能なるも有力なる一因たるを失はざると同時に此響應に乘じて思惑買の盛なりしも看過す可らずされば若し平和の扉を開くに於ては到底外粉の暴落を免れず又內外對外輸出は果して從前の如く好況を以て目し得るや否やに付ては一考せざる可からざるが然し今回の講和が果して成立すべきものなるや否やさへ疑はしく內地の小麥關係に騰出の果して悲觀すべきかに付て冷靜に思考するときは自つから氣迷ひに陷るべし兎に角人氣を失せし農先寅買見送りの市況なりとは止むを得ざるべし

●和紙は强硬 堅實なる市況を辿り漸騰步調を示し居れる和紙は原料三椏楮パルプ等高値なる爲め製造家は不引合なる氣配濃び市況も停滯の傾きあるも折柄最需要期にて紙價一般に强硬を示し居れり

●買氣は格安物に向つて …

●金物類落付 一時狼狽の極に達せし金物類も其後漸く落付き …

●綿糸は强調 …

●高合み …

●東豆腐初荷 …

●七八十錢高の六圓 …

●二三十錢處 …

●味噌醤油愈値上 …

●大樽一丁一圓五厘の値上 …

●蜜柑と打擊 …

南大門の廻穀

烏山白米	九一叺	水原白米	三八叺
烏山白米	一九〇叺	水原白米	五〇叺
仁川玄米	三五六叺	水原大豆	一三叺
烏山白米	二六六叺	烏山糯	七八叺
水原白米	一一五叺	烏山糯	一〇四叺
水原玄米	一三八叺	烏山糯	二〇叺
平澤白米	一三〇叺	烏山白米	四七叺
黃州穀	一三九叺	烏山糯	一五叺
西氷庫豆	三〇九叺	水原糯	八四叺
平澤白米	一一二叺	水原白米	二三叺
平澤大豆	一一一叺	水原大豆	四〇叺
水原白米	三二二叺	烏山白米	二六叺
水原大豆	二六叺	烏山玄米	五七叺
烏山白米	一三三叺	天安白米	五四叺
烏致院綠豆	二二九叺	烏山白米	五三叺
全義白米	七六叺	平安糯	一〇四叺

仁川現物市場

▲籾入津三千餘俵 氣配變らざる唱へ
▲正米入津二百餘叺 氣配保合を唱へ居れり
▲大豆入津二千餘叺 氣配同事の唱へ

釜山穀物市場 十五日

△正米（三十錢安） 周著品は眼先き相際に出廻りあり賣り物多數にして買人も目下本邦正米の不況に連れ餘り買ひ進まず從て附値安く持米側も成行き商議に應ずる樣子なれども氣配不味の狀態にて三十錢安となれり
△大豆 本邦不況に連れ買人は弗々

下關相場

▲朝鮮白米も安合み 是又目下の在米は何れも高値掴みの品なるより自然安くは手放し兼ぬる風情なるも何分期米の意外なる大崩落を演じたるより見起しを以て只管買入の手控へ居る爲め見るべき商內行はれずして市況安合みなり
▲小豆は居据り 本品は米價の不勢と共に是角買れ行き鈍情にして市況引立つべくもあらず然れども産地との比較上別に賣り急ぎ物の現はれざる爲め…

●澤庵賣行良好 澤庵は內地朝鮮共に原料大根の作柄不良なりし結果何れも昨年より約一割五分高の見當なるが本年は原料の値高と上品の少なかりし爲め自家資手控への向多かりしより賣行きは極めて良好なり

各地商況

●木浦（十四日の穀物） 本日廻着高は五六百俵の小口にて前場は出廻りたるも質より金を買ひたる向あり…

△朝鮮一等白米（常用）十六圓七十錢
△同二等白米（常用）十六圓三十錢
△鎭南浦大豆 十一圓八十五錢
△元山大豆（挽豆）十一圓九十錢
△鳥致院口豆 十一圓九十錢
△鎭南浦大豆 十一圓四十錢
△元山大豆 十二圓二十錢
△同 十二圓二十五錢

京城正米

慶報の如く移出白米發送不能の折柄內地期米の暴落正米又散々の不況移滯を受渡しに際する懸念とにより此りに折角の往文引受口も手控米の停滯は各所共に全く手を引き居れる模樣にて賣人は此處彼處に見本を持廻り居れるも殆ど値附さへせず一部買入るが此邊又賣人か手放し兼れ居れる模樣にて商內出來せるもの極めて稀なり前記の如き成行きなれば氣配として前日より先づ二十錢安といふ處なり

市場零聞

▲更に新高値 天候晴 天大阪寄十二圓七十一錢と寄付たるが〇より大賣物現はれたると共に六十錢に迄り …

仁川期米

▲十六日前場 天候晴 大阪天前寄十七圓二十錢一錢と昨止より十四錢安の入電二節二十錢
四錢の移り…大阪四節十一錢と安移り …更に瓦落を…

●四錢と更に瓦落を移し…大阪の六節十六錢と跳ね引返し…六十錢丁度と瓦落れ返しを受けて六十

六錢と戾し

…存外下げ澁り感に比し大阪の不勢 …

▲前場の手振 …

期米 仁川米豆取引所仲買人 ㊥賣買 平臺商店 電話 一五八長一五九 電略（ヒ）又へ（ヒラ）

仁川米豆取引所仲買店 三巴 電話 三一三三二 振替口座京城四〇二

▲今能く買ふ …
▲大に賣る …
▲全能く買ふ …
▲の商內 …
▲依然下げ澁る …
▲四百五十丁內外 …
▲八十丁以上の伸縮 …
▲弱氣の氣焔 …

仁川米豆取引所

十六日の一月限

前場	
寄付	十二圓七十一錢
止め	十二圓六十五錢
高値	十二圓七十一錢
安値	十二圓六十錢
出來高	四萬三千二百石

平均値段	
一節	十二圓七十錢
二節	十二圓六十七錢
三節	十二圓六十六錢
四節	十二圓六十二錢
五節	十二圓六十五錢

賣買取組高	
十二月限	二百石
一月限	一萬七千六百五十石
二月限	十三萬七千六百石

十五日後場 前日と比較

一二、七四	三安
一二、七五	一〇安
一二、七五	四安
一二、七三	一三安

食料品小賣値

中品及び中品以上百目に付

カズノコ	二五	シイタケ	一〇
ゴマメ	一八	アヂノリ	五
ボーダラ	一七	カツヲブシ	八五
スルメ	七五	ギンナン	七
ダシコブ	一六	タケノコ	七
イリコ	一七	マツタケ	六
シロコブ	四	カムメ	二
アチコア	二二	十六豆	四
クロマメ	一四	クラゲ	五
ワラ豆	三三	ゴマ	三

本年の讀者文藝募集締切廿日限り何號を明記に限る（但何書…者には五十錢書籍券を呈す

お歳暮は消化と害けし仁丹が一等！

天下を動かさんと欲する者は先づ自らを動かすべし

▲▲幅引景品進呈 おいしい物珍らしき物
歳暮大賣出し
十二月十日より三十一日まで 德用な物等進物用品澤山
商品切手 營業品目は洋酒食料食器菓子煙草西洋雜貨 切手は東京大阪大邱平壤安東縣に通用し頗る便利に候
京城本町二丁目（電話二七番 四七五番）
龜屋商店

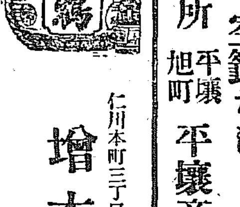
淋病新藥 ツヨール
山藥學博士、慶松藥學博士證明、田中醫學博士實驗、朝比奈藥學博士、岩川醫學博士檢定
笹川醫學士、加藤獨國醫學士、山田獨國醫學士實驗の結果理想的治淋劑と確定せる
▲本品は殺菌力強大にして絕對に胃腸を害せず勝產カタル、尿道炎、睾丸炎、腎臟炎、膀胱炎、其他一般淋病に偉効を奏す
百粒入金貳圓 五十粒入金壹圓五拾錢 廿五粒入金八拾錢 說明書無料贈呈す
發賣元 東京日本橋區濱町十一番地 ツヨール商會 關西代理店 大阪道修町 田邊五兵衛
〇到處藥舖に販賣

期米 大阪堂島米穀取引所仲買人 曽我商店

橫濱 牛乳 石鹸 洗粉 ニウソ 製造元 肥塚正太
京城蓬萊町四丁目 東亞牧場 電話五二番

太田胃散
〇飲過ぎ食過ぎに妙なり
壹瓶十錢廿錢廿錢五十錢一圓
本舖 東京吳服町 太田信義藥房
△全國到る處の藥店に販賣す

歳暮聯合大賣出し
主催 平壤商業會議所 後援 平壤繁榮會
賣出期間 自十二月十五日 至同三十一日
▲景品券 御買上高金五十錢每に進呈
▲景品總額 金三千圓也
▲景品▼
一等 二十四本（金廿圓相當品） 總額金四百八十圓也
二等 二十四本（金十圓相當品） 總額金二百四十圓也
三等 四十八本（金五圓相當品） 總額金二百四十圓也
四等 七十二本（金三圓相當品） 總額金二百十六圓也
五等 三百六十本（金一圓相當品） 總額金三百六十圓也
以下六等より十等に至る 總額金一千四百六十四圓也
壹本も空籤なし
景品引換場所 平壤旭町 平壤商業會議所

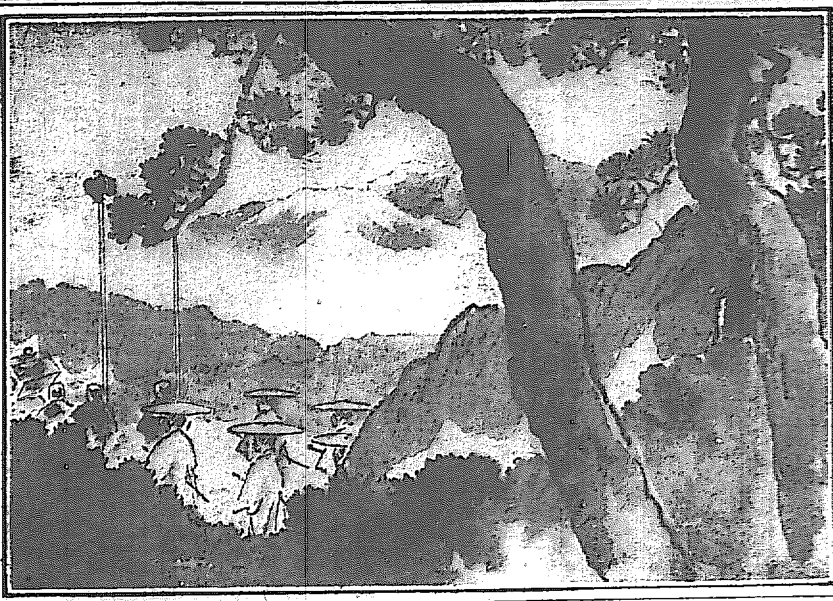
醇良清酒


仁川本町三丁目 增本酒店 電話一〇九番 振替京城六一九番

明君道中記

第七席 田邊南龍口演

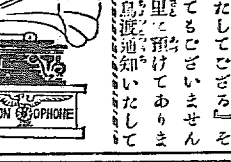
稻葉內匠は縁に出て庭を眺めて居りましたが、柴折戸の外に音ずれる者がある故立出て見れば立派な扮装をした使者體の人物であります 內「是は御歴々には何用あつてかゝる茅屋へ参られたるか、浮世の交りを斷つたる浪人者の見苦しき茅屋に御來來は門違ひではござらぬか、不思議なことでござる 武「イヤ門違ひは決していたさぬ、未だ拜顔はいたさずとも其許は稻葉內匠殿と仰せられるよな 內「仰せの通り稻葉內匠今は世に無き素浪人、然て其許は 武「我等は京都所司代板倉伊賀守の使者勝田左膳と申する者、使者の口上は餘の儀にあらず明日所司代屋敷に五ツ時までに御出頭有之べく、委細は所司代伊賀守御面會の上申し上げるとのこと此段御承知有之度、使者の口上は斯くの如くにござる」と慇懃に述ると、內匠は是を聞き 內「ハ、ツ京都所司代板倉伊賀守殿が素浪人の我等に何の御用かは知らねども郷に入つては郷に從へ、此の京都に浪居いたし居る以上は所司代よりの御招きを辭するは無禮明朝五ツ時までに相違なく出頭いたすでござらう、此段宜しく御披露を願ひまする 武「早速の御承知伊賀守殿も嘸ぞ御満足に思召すでござらう、さらば是にてお暇申す 內「イヤ是は碌々に粗茶も参らせず御覧の通りの茅屋故失禮は御免下さい」 使「奥ゆかしき武士の作法町寧に送り出した時に、左膳も禮を述て駒を牽して東山を下りまする、それから其の翌日と申しても間の無いことでございますから、早速衣服を駕籠の内より取出し夜明けを待つて稻葉內匠が先づ浪人をしても恥しからざるだけの支度をいたして門前の小者を雇いて草履取の役を命じ、それより所司代屋敷へ來つて案内を乞いまする、程なく此處へといふ取次が出ましたから使者の間へ通ると間もなく書院に招待して饗應をいたし、板倉伊賀守麻上下の姿にて其邊へ立出まして 勝「是は〱稻葉內匠殿は足下にてあつたるか、不肖は板倉伊賀守でござる、此度江戸表老中方よりして足下を江戸表へ呼び下すとのこと、定めし種々御都合もあらうが枉て關東へ御下向あつて宜しからう、是は失禮でござるが當時御浪〱なとのこと支度もござらうから此にて御賄いなされて然るべく、至急を要するとでござるから愈明日當地を出立といふ前日には鳥渡所司代屋敷まで御沙汰下さる様、此方に於てもそれ〱の支度もござる」と伊賀守が懇ろの言葉に稻葉內匠も恐縮いたして 內「何御用かは存せねども江戸表より拙者をお招きとのこと委細承知仕りましてござる、然し永々浪人いたし居りました故却々立派に装い飾つて關東に下向いたす譯には成り兼ませる、それ等の處は幾重にも御容赦に預りたい 勝「イヤ其邊は御念には及ばず、此は江戸表より御內意も有之こと故當座金子二百兩此にて相當のお支度を爲されて宜しからう 內「支度と申しても却々かゝる大金を申し受けに及ばんが、折角公儀からしての賜もの預り申して置きまする」と此金を懐中に收んで辭去所司代の公用人にも面會致し東へ下向仕るは何ういふ振合にいたして宜しいかと云ふ 公用「其儀は此方に於て萬事滯りなく用意いたして置きまする故御出立の前日鳥渡お屆を願ひまする 內「承知いたしてござる」それより一家親類とてもございません只自己の子供等を里に預けてあります故、それ等へも鳥渡通知いたして最早心にかゝる雲もなしとそこ〱に支度をいたして居る內に、板倉伊賀守より迎ひとして兩若徒用意の駕又馬一頭、鋏箱合羽籠鎗挾箱を預る人足手廻りの者都合十四五人東山の茅屋へ参りましたから稻葉內匠は此の駕に乘つて今日を晴と行列立て花の都を後にして東海道五十三次を經て三月の下旬江戸表へ到著いたしました。



外科 花柳病科
內科 皮膚科
院長 正六位勲四等 島崎龍一
京城旭町二丁目（本通りより左に入る）
手術室新設 普通隔離病室
島崎病院
電話二七三六番

一ベン御タメシ下サイ
寫眞 旭町一丁目電話三六一番 河原寫眞舘

（鷲印音譜半額）
十二月號新音譜
桃太郎新印新音譜
澤山著衔
目錄進呈
京城本町 日本蓄音器商會



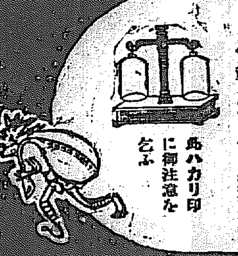
易

十二月十八日九星
舊十一月二十四日己丑
本命八白 良 除 鬼宿

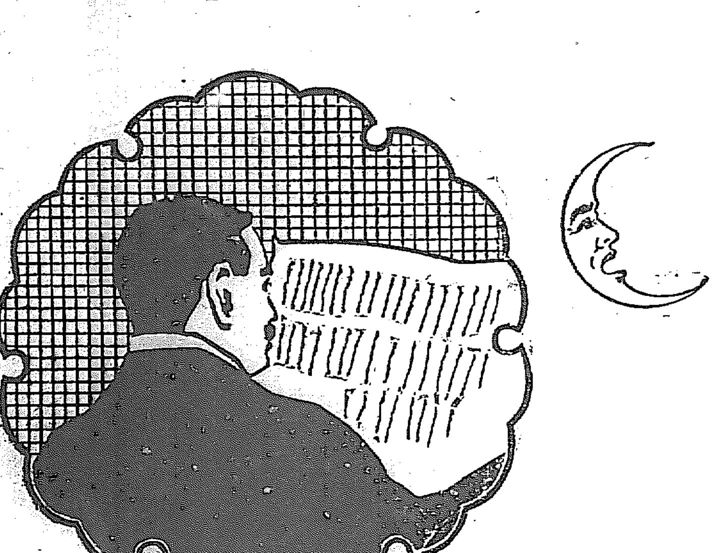
△八白 一寸口舌する事有る 日新事見合東方は吉 △九紫 上等の日 轉居旅行入門名弘造船採鑛建設買物薬等萬吉 △一白 ぐれはまの事有る 日新事手控舊事は吉婦人と約束を忌む △二黒 拜みたふしに來る事有る 日新事手控舊事吉又散財を防がるべし △三碧 姉妹衣を争ふが如き事有る日新事手控舊事は吉女子は行義を守らるべし △四綠 氣の話に口事有る日新事手控舊事は吉賓借の口入等せぬがよし △五黄 親切を盡して仇とならんとす注意新事手控舊の事は吉 △六白 利益多き日轉居入學金件名急探鑛求職嫁娶取開業薬等萬吉 △七赤 特色を顯はす日轉居行商入學名弘求職金融婚禮女子の物の指南を始むる等萬吉

寫眞
寫眞出張撮影
寫眞銅版、亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て最も廉價に迅速と叮嚀親切を旨とし御高需に可應候
京城日報社 寫眞製版部

拙者はかぜの神である、年中あらゆる人間の油斷をのみ覘ふてゐる、而も今は拙者の最も得意の時候だから、ドシ〱肺炎や窒扶斯の種を蒔て苦しめてやる、其中酷く侮る奴は容赦なく殺して了ふ、然しハカリ印のヘブリン丸は拙者唯一の强敵である、拙者が如何に暴力を振ふても忽ち撃退されて了ふ。實にハカリ印のヘブリン丸には流石の拙者も兜を脱がざるを得ないのである。



本舖 大阪 合資會社 参天堂藥房
ハカリ印に御注意なさい



識者は常に
最も進んだもの
最も確實なもの
を追求される。乍併化粧衛生には矢張り廿餘年來の經驗を以て最近の化學を充分に應用して居る……

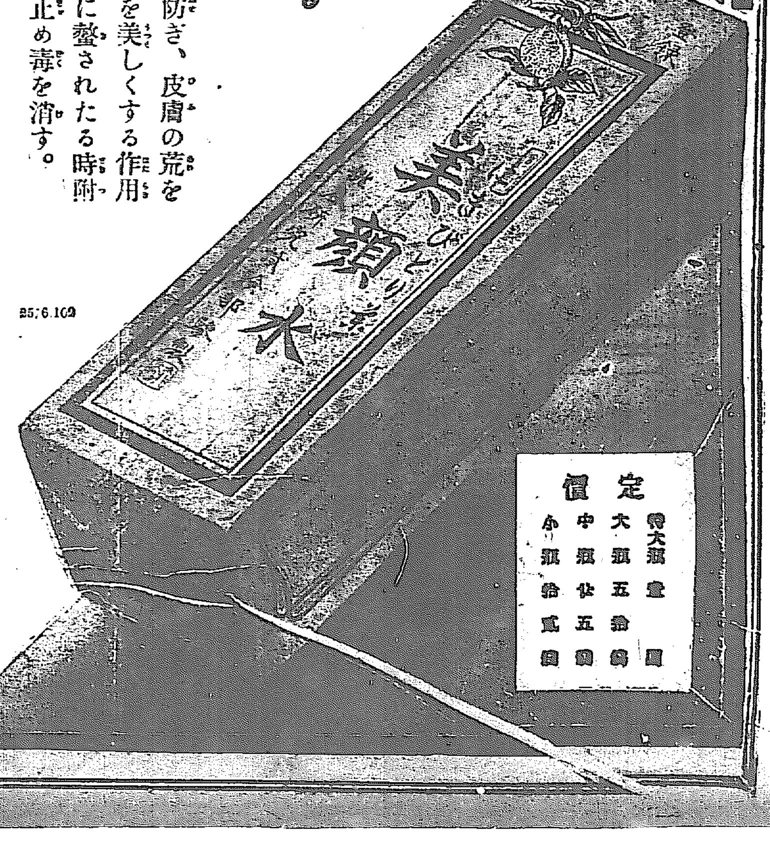
品質本位
花王石鹸に
優るものは認められない！

花王石鹸製造元 香水歯磨関東代理店 東京馬喰町 長瀬商會
花王石鹸香水日本輸入元 花王石歯磨関西代理店 大阪安土町 大崎組商會

りん病
消渇で困る方 多年の慢性もの 治癒す
自宅にて人知れず安全秘密に治癒する良藥あり只一劑を試よ切手三錢送れば其良藥と自宅療法の詳細を教ゆ
名古屋市南かじや町 武藤亀吉

白粉中の白粉、塗けて普通のおしろいとは白さが異ふ
ホーカー白粉
■肌の生地から美しい白さに塗く外にない美容劑本位の白粉一度お試し下さい
定價一瓶廿五錢 送料內地無料 本舖 東京和泉橋（[illegible]一五〇） 堀越嘉太郎商店

ニキビ吹出物を治すには
にきびとり
美顔水
常用すれば
ニキビ吹出物等を未發に防ぎ、皮膚の荒を去り肌理を美くし、素顔を美しくする作用あり。尚蚤、蚊、南京虫等に螫されたる時附ければイヤな痛さ痒さを止め毒を消す。



25:6.102

定價
特大瓶壹圓
大瓶五拾錢
中瓶廿五錢
小瓶拾貳錢

明治三十九年九月一日第三種郵便物認可　大正五年十二月十七日　THE KEIJO NIPPO　第三千三百二十八號（一）

京城日報

十七日朝刊（夕刊と合せて八頁）

嗚呼大山公

藍峯生

大山元帥の薨去は、我が朝廷をして、一の重臣を失はしめ、我が軍隊をして一の老將星を失はしめ、我が國家をして、一の大人を失はしめ、我が社會をして、一の前代の活ける歷史を失はしめたり。是れ實に容易ならざる缺陷也。天下何人か公の長逝を深悼せざるものあらんや。平生何人も氣附ざる庭石も、若し之を取り去らん乎。乍ち滿庭の配合に異狀を生ずるを見出さずんばあらず。乃ち公の存在を、平生念頭に措かざる輩さへも、今に至りて爽然自から失するを禁ずる能はざるものあり。况んや本文の記者の如き、聊か公の一身の天下に關係する所、少からざるを知り、且つ曾て麾下に瀨を門下に忝うしたる者に於てをや。

若し恐れながら　明治天皇を以て、太陽に擬し奉らば、公は其の周圍に羅列する、群星の一たりし也。公の功業は、明治の史上に赫灼たり。乃ち武勳に於ては、十年の役、二十七八年役、三十七八年役、何れも公は皆戰に臨み、或は偏師となり、或は總帥となり、其の殊勳を奏せり。而して事是よりも大にして、却て世に現はれざるは、公が帝國軍務の基礎を定め、之を大成したるにあり。是れ固より公一人の力にあらず。行輩中の先進、若しくは同僚としては、山縣元帥あり、故西鄕侯あり。其の後進、若しくは部下としては、桂、川上、兒玉、寺內等の諸將あり。然も若し帝國の軍務に就き、其の功勞者を個人に求めば、山縣元帥を第一位とし、公を以て次位とするに、何人も異存なかる可し。桂、川上、兒玉、寺內、其他の奇材、異能の士をして、克く其の所長に從ひ、其力を竭さしめたるもの、固より公が大膽を持し、鈞衡を秉るや公平に、時務を見るや明白に、而して其の心休々焉として、能く容れ、能く斷じ、能く行ひたるに由らずんばあらず。特に公の明治十七年の洋行は、我が陸軍の歷史に特筆す可き一紀元を劃したるもの也。而して公が桂、川上兩人に向て、互に親協し、帝國陸軍の爲めに、貢獻す可きを諭したるも、亦た此時にありとする也。

人或は公を評して、混漠たりと云ふ。然も吾人は何の方面にも、公の如く要領を得たる人を、見出さゞる也。公の韜晦は、韜晦にして、其の居處謹重なりしが爲めに、或は然かく思ひたる者もあらむ。然も維新以來、薩州の諸先輩中に於て、眞に所謂る智者ありとせば、乃ち公たらずんばあらず。故西鄕侯の應變の機略、一世を籠絡するの術數を以てしても、其の智に至りては、公に讓らざるを得ず。然も公の智は、自から私するの小智にあらずして、天下の大局に處するの大智也。是れ公が鹿兒島の一寒士より、人臣の極位に躋り、而して五十餘年の公生涯中、遂ひに一個の敵をも、見出さゞりし所以たらずんばあらず。古人曰く、其智には及ぶ可く、其愚には及ぶ可らずと。愚は智の極致也。唯だ我が大山公に於て、之に庶幾し。

如何に藩閥を攻擊しても、戊辰以來明治二十三年、帝國議會開設迄は、日本帝國の大政は、薩長人士の力にて運用し來りし也。戊辰前後には、西鄕、木戶、大久保あり。明治六年より、明治十一年迄は、大久保あり。但だ大久保死後の明治政府は、賴ひに雄邁、老練なる岩倉公ありしも、政府の基礎は、幾回か動搖したり。然も此際に於て、薩長が互ひに內に相ひ鬩ぎつゝも、外に向つて一致したる所以は、一方に伊藤、山縣あり、他方に西鄕、大山ありしに由らずんばあらず。蓋し故西鄕侯は、天下無雙の脇師也。或は伊藤公を相手とし、或は山縣元帥を相手とし、時としては大隈侯を相手としてさへ、向ふ所可ならざるはなかりし也。大山公の役目は　西鄕侯の如き、賭役にあらざりし也。然も公は夙に薩長の協戮して、先輩の遺業を大成せざる可らざるを知れり。而して長派に於ては、文に於て伊藤を本尊とし、武に於て山縣を本尊とするを知れり。此に於て公は此の兩人と相ひ提携して、未だ曾て一毫の芥蔕あらざりし也。而して伊藤、山縣兩公も、亦た大山公に向て、恒に信賴す可き政友、若しくは僚友として、相ひ待ちし也。

人或は公の寡默を稱す。然も公の無言は、他の雄辯よりも、有力なる雄辯たりし也。公が發言するにせよ、せざるにせよ、如何なる場所に於ても、公の在る所、必らず其の重を爲せり。公は同僚としても、上長官としても、決して唯々、諾々の好々翁にあらざりし也。公は胸中恒に見解あり、而して其の所信を、一貫するに於ては、凜然犯す可らざるものありし也。公は小節に區々たらず、然も其の進退必らず據る所ありし也。人を使ふ寬大也。然も決して放慢ならざりし也。故桂公の如きは、大山公の陸相時代の部下として、最も其力を竭したる一人也。曾て記者に語りて曰く、予未だ此の時代程、骨の折れたることはあらざりし也と。蓋し公は一切放任の、長上官にあらざりし也。

公の智は大勢を見るに長じ、人を鑑別するに長じ、特に自から處するに長じたり。公は或る意味に於て、個人主義者也。親分もなければ、兒分もなし。從て藩閥心もなければ、黨閥心もなし。然も亦た利己的個人主義者にあらずして、偉大なる個人主義者也。公は一個の薩派の長老にあらずして、其の心は恒に帝國の上にあり、其の眼は恒に世界の大局にあり。公は恒に自個と、周圍とを調和して、大勢に順應したり。されば公の一生を始終して、未だ曾て逆流に棹したることあらざる也。

公を稱して、進步主義者と云ふ能はずんば、寧ろ中正主義者と云はざるを得ず。公は決して大勢に先つが如き、冒險者にあらず。又た大勢に取り殘さるゝが如き、間拔者にあらず。公は恒に大勢の酣暢なる中心を趁步せり。其の結果は、何等世人の視聽を聳動せしめずして、恰も自然力の作用の如くして、今日あるを致せり。

何人も公に及ぶ可らざるは、自から知るの明にあり。此の一點に於ては、維新功臣中、明治元老中、唯だ大山公あるのみ。公は決して他の煽動に乘り、挑發に應ずる人にあらず。公は決して自から色氣を出し、野心を逞うする人にあらず。公は豫じめ自個の立場を定め、其れ以上の事には、其れ以外の事には、何等干係せず。然も其の分內の事に於ては、斷乎として、一步も他に假借せざりし也。其の二十七八年役に、第二軍の軍司令官たり、三十七八年役に、滿洲軍の總司令官たりしが如き、固より公が分內の事として、公は勇躍此に從ひしが如し。公は決して無主角の泥塑人形にあらず、唯だ自個の勢力範圍を劃定して、漫に多方面に手を差出さゞりしのみ。然も天下何人か、敢て公の分內に立ち入るを得る者ぞ。乃ち此の氣象は、公が晚節、內大臣として、尤も鮮明に發揮したり。但だ宮中の密勿に屬し、記者は之を明記するを敢てするのみ。

人或は公の功名心無きを稱し、恬淡にして、貨殖の念有らざりしを讚す。然も是れ唯だ公を、仙人化したるのみ。公は仙骨にあらず、人間也。既に人間なれば、其の弱點に於ても、人間に共通す可きは勿論也。但だ公は彼我の差別、自他の差別、公私の差別を明白にし、敢て他の煩累を招かざりしのみ。勳業の高きを欲するも、政治に容喙せず。家道の隆昌を期するも、貨殖に奔走せず。所謂る主一にして、清靜なるは、公の守身、處世の要訣たりしにあらずや。是れ吾人が公を稱して、偉大なる個人主義者と云ふ所以也。

公は資性寬裕なりしも、其の胸中には、人物を臧否せり。愛憎なきにあらざりしも、私情の爲めに、公事を枉げず。而して其の炯眼、明識は、地中の水が、自然に噴出するが如く、重厚なる公の口を衝て出で、或は奇警となり、或は冷刺となり、覺わず眼前の情僞を暴白して、其の本相を露呈するを禁ずる能はざらしめたり。公の親しむ可きを知るも、亦た決して其人に接する恭敬にして、何人も其の狎る可らざるを知れり。

蓋し公は南洲の從兄弟にして、其の血管には、固より英雄の血あり。殊に故西鄕侯と與に、壯時より恒に南洲に親炙し、陰に軍國の大事に參與し、其の感化を被る、多大なりしが如し。而して南洲の遺逸は、故西鄕侯之を得、其の識慮は、大山公之を得たり。

記者曾て本年八月一日の午後、公を新橋停車場に見る。公が時局の艱險を傍觀する能はず、炎熱を侵し、國事の爲めに奔走しつゝあるを察し、心竊かに公の晚節の、愈よ壓しきを欽仰し、其の長へに、斯君と、斯民との爲めに、冥々の力を致されんことを祈れり。而して今や溘焉として逝く、豈に悲しからずや。嗟吁南洲の遺範、公と與に去りて、愈よ遠し。若夫れ公が家に賢夫人あり、良子女あり、家門雍睦にして能事、所謂る慶的好家庭を作したるに至りては、現代の上流社會を通じて、殆んど其匹平なりと云ふ可し。唯だ此の一事を以てしても、亦た以て公の德を頌するに餘りあり。嗚呼哀哉。

忘機吟社吟藁

十二月例會席上

○冬夜讀書　大陸　鳩仙
凍合窓紗雲仔細看。禪房兀坐夜將闌。光心讀先師偈。端的明明月一丸。
評曰、雄風掃雲、大月在空、唯是有氣、不見有語。

○同上　齋藤　三貢
松風撲撲野人扉。月掛簷端滿庭揮。寶燈剪與佛坐。三更讀破一心經。
評曰、超心脫俗、磨光滌垢。

○同上　江原　如水
寒梅影上映窓扇。漸擁風聲寂一庭。有約佳人猶未到。心香一炷對殘經。
評曰、喬得幽微清遠之趣、寂字點字措置得宜。

○同上　成田　魯石
日悄窓前句句無。一燈寒焰影伴形。久聞書卷氣。雪花飄處讀花經。
評曰、雅致高潔、悄然塵表。

○同上　高田　小芥
榛牙万映滿庭霜。兀坐三更未上床。一卷書籍開讀了。四隣閑寂似禪房。
評曰、老而益壯、寶醒弱輩。

○同上　西田　白陰
一吊銀燈長短冰。滿室寒焰若氣凝。青燈補來夜將白。破窓雪撲讀書燈。
評曰、細心裁製、用字不苟。

○同上　西田　白陰
愛讀深宵寒颼漸漸咽枯林。四隣入定燈下。一卷細看萬古心。
評曰、神韻清新、無此瑕影。

○歲晚雅集　西田　白陰
一宵俳句歲將終。同上吟壇塵慮空。月在梅香肉再。卻疑身世坐春風。
評曰、悟道之言。

○同上　高井　椿堂
坐上無浮一俗埃。賦詩不睡待春來。鐘聲百八方聽盡。促歲杯兼迎歲杯。
評曰、遺筆如意、中見吟骨稜稜之狀。

○同上　齋藤　三貢
窮鬼不來山寺門。瓶茶今日慰吟魂。邪敲句無佳句。輸與明朝醉一樽。
評曰、不費按排、自尖新。

○同上　大陸　鳩仙
例會同調催晚餐。忘機把臂坐吟壇。歲云暮矣剩詩債。酬作風流如是觀。
評曰、阪本三柘詩曰、尋常有債詩債補、幾下風塵又一年、同工異曲。

○同上　江原　如水
山門解脫禪詩家。此夕雅懷誰得遮。三百六旬云欲盡。木魚聲裏酌瓶茶。
評曰、歲晚未苦悲語、何等風流。

○同上　高田　小芥
蘿歲殘蜂僅得捜。無鷲入句街搔頭。眠花底泛江山景。盤水如池杯似舟。
評曰、信手拈句、逸態奇趣可想。

○同上　成田　魯石
祭詩守歲坐禪林。幾禮空王費苦吟。自笑平生疎懶太。鐘樓早已送鯨音。
評曰、一時興到之作、語不採琢而出、却見妙旨。

煤掃（五の日十の日會吟）

○煤腕つきり天井の笹箒　黃丘
○どつさと古雜誌ほり出し煤掃く　華虹
○煤掃く裸桐に晴れて　鳥堂
○煤掃く家の壁下の小舟　目池

社告

過般京城に開會の全鮮新聞社聯合大會に於て新聞原紙及諸材料暴騰に付き各社代表者協議の結果新聞代値上げの件決定就ては大正六年一月一日より

京城日報（壹箇月）定價金五拾五錢

に改定致候此段愛讀者各位に謹告仕候也

大正五年十二月十五日

（社名いろは順）

北鮮日報社　鴨江日報社　咸南新報社
南鮮日報社　群山日報社　京城日報社
元山每日社　京城新聞社　釜山日報社
光州日報社　湖南日報社　朝鮮新聞社
朝鮮民報社　木浦新報社　西鮮日報社
全北日日社

新年號　飛行少年
新年附錄　世界軍人双六（鐵堂案　洗馬畫）
□水底の大動（冒險小說）……黑田湖山
□化學室の大秘密（探偵小說）……溝口白羊
□鴨綠江の血烟（熱血小說）……宮崎一雨
□此一念（教育小說）……仲摩照久
□七家子の騎兵戰（悲愴戰話）……金井白水
□密偵大尉の最後（滿鮮美談）……吉田興山
特別懸賞　司令官當……懸賞金五百圓
□伯林獄中脫出記……辻高衛
□飛行機の進步……田中舘博士
□南洋漂流記……野崎間武
讀物附錄　世界大戰爭
□百人一首必勝法……落葉
□吹雪の谷……落葉
□疑問怪艇（愛國小說）……村山天兒
本號特價一部十六錢　郵稅一錢五厘
東京京橋南八丁堀　日本飛行研究會　振替東京二六三○

米界の希望と世上の大景氣
迅速に精米歲の增設を要す
特許　清水式無砂精米麥機
此際特に急告……
本機の盛行多大なるを見て本機に形のみ似せたるもの各所に販はる欺かれて御損害を受け玉ふな
模造品に御注意
全國各農事試驗所、各稅務監督局、各農學校、陸軍糧秣本支廠、醸造試驗場其他官省御用命
東宮殿下御買納品　卽位式主基田齋米精白　金銀牌十數個受領
製造發賣元　陸軍御用達
東京市神田區五軒町三番地　合資會社　清水商會　特長電下谷三七三四番　振替二○七○○番

富強世界社長高柳淳之助著
大正六年株の豫想
一千部限分讓　大判クロース製全一冊　定價參圓　小包料八錢　郵券一割增
本社々長の株式前途觀は毎月の富強世界に公表しつゝあり見事に的中す大正六年の株式界に成功せんとする者は須らく本書を讀みて先づ方針を確定せよ（但株式相場の智識なき者は次の講義錄を讀みたる後に本書を讀め）

株式相場講義錄
「成功致富の近道は何か」先づ株式相場をなすに限る株の賣買は決して危險にあらずと題する大廣告は諸君の記憶に新なるべし目下入會者激增一時大廣告は休止する特志者の入會は歡迎す見本御申込はハガキにて申越次第進呈
大判六百餘頁全八冊　會費七圓　只今入會者は會費半額

借金整理法
本書には先づ第一に借金の性質から論じ起しどうしても拂はねばならぬ借金と支拂はずともよき借金の實例を示し親の借金や又は他人の借金の保證をして苦む者に助言を與へ高利の借金等の整理を教ふ整理の方法ても月賦償却法低利借替法無盡救濟法斷行的整理法等を詳說し又支拂命令財產差押强制執行等を受けた時の對抗法を示し以て借金に苦しむ人を救濟し進んで安全なる資產を作らしむる良書也
四六版全一冊二百餘頁　價六拾錢　郵送料六錢　郵券一割增
發行所　東京神田表神保町一○　富強世界社　振替東京二八一九七番　電話本局五八六番

活動寫眞專門雜誌
活動之世界
新年特別號
◎口繪堂々卅六頁◎
▼全部新着原版 ▼カナードとフォード氏案頭 ▼カブエーニ・ロバン夫人新装 ▼ロローのエーザ・ボロ氏新影 ▼マリオ・ボンナルド氏新影 ▼ハーバート・ローリンソン ▼パールホワイト▼メニケリン ▼クレオマチソン▼マチステ ▼チヤーレ嬢▲ベルチニ夫人 ▼マパートレオナルド氏新影 ▼海外名優寫眞數十版 ▼色刷女神の戲れ ▼色刷生さぬ仲 ▼丸髷姿のキンボルヤング嬢 ▼日本人出演の世界的名寫眞 ▼ポーリン▼チヤプリンの新落 ▼毒流▼愛の決闘 ▼ロロー▼ウルタス▼山賊 ▼黑猫▼毒盃▽山賊 ▲生さぬ仲▼稻妻强盜 ▼お夏文代▼數島物語 ▼日本女形揃ひ數十名 ▼此外各國俳優舞臺面數十版
◎本文二百五拾頁◎
▼朝野十二名家活動寫眞談 ▼連鎖劇百人百話▼大正五年回顧 ▼シドニー氏のアルタス ▼俳優の新年▼各國人氣俳優錄 ▼今後日物語▼大寫眞の紹介 ▼淺草情話▼お夏文代▼極樂寫眞當選發表 ▼活動役者の給料▼女優生活 ▼封切物一覽▼內外通信▼內外俳優消息 ▼誌上大會▼寶探し▼文藝▼通信 ▼さし繪寫眞版數百版▼此外百般記事滿載
附錄　活動寫眞會社錄（世界各社マーク入）口繪寫眞版數十版挿入
▼生活群流 五卷 ▼活劇ポーリン 四十卷 ▼劇お伽クリスマスの夜 二卷 ▼復讐ウルタス 四十卷 ▼大活劇ロロー 四十卷 ▼喜劇チヤプリンの新落 三卷 ▼人情劇愛の決闘 五卷 ▼人情劇月宮殿 五卷 ▼活劇山賊 ▼悲劇鹿笛 ▼井上正夫生さぬ仲 六卷 ▼黑猫 五卷 ▼山本勘助 ▼數島物語 ▼悲劇お夏文代 八卷
定價一冊卅三錢
活動之世界社

日韓書房
新版報告
本多日生著　法華經講義　上下各卷　定價四圓八十錢　送料十八錢
大町桂月著　百人一首新解　定價四十錢　送料四錢
今村猛雄著　農家收益增進法　定價七十錢　送料八錢
芳賀杉谷共著　書簡文講話及文範　定價一圓三十錢　送料十二錢
同　作文講話及文範　定價一圓四十錢　送料十二錢
京城本町二丁目　電話一四四一番　振替口座一五五番

藥學を學べ
藥劑師となれ!!而して前途有望なる藥界に雄飛成功せよ
本會は通學の餘暇なき志望者の爲め充分其目的を達せしむ
會員募集　八ケ月卒業
藥劑師となる近道は藥學士專門大家の署名執筆せる學說斬新內容豐富なる東京藥學講義錄に限る　見本つき會則申込次第進呈
東京藥學會　東京神田表猿樂町廿五

此度安東縣江岸通二丁目株式會社安東油房倉庫を讓受け本月一日より一般貨物の保管並に之に關する附隨業務を營み可申候間何卒不相變御引立の程偏に奉願上候　敬白
大正五年十二月
驛店
安藤洋行
店主　安藤達二
電話三六○番・中電一九○番

◎新學期開始
短期速成　建築科講義錄
▲僅に一年にて建築の奧儀を極む▲讀者は斯界の大家
◎會員大募集
▲會費は低廉比なし講義は平易明瞭にて實用的也
見本付規則書申込次第進呈▲世の入會者に種々特典有
東京麴町區飯田町三　帝國工業教育會

優等清酒
三巴
京城府蓬萊町四丁目
三巴正宗發賣元
大田酒造場　電話○一○六七番　振替口座一八六番
平壤支店　電話一二三五番
支店　電話五一一番

故大山公へ誄詞

天皇陛下には十六日午前十一時侍從原恒太郎氏を勅使として故大山公爵邸に參向せしめ幣帛、神饌、榊一對を賜ひ左の誄詞を傳宣せしめ給へり尚皇后陛下には三室戸主事を御使として御差遣祭粢料金千五百圓榊一對を賜へり(東京特電)

誄詞

要職ニ歷任シ庸ニ軍機ニ參シ重寄閫外ニ承ケテ皇威ヲ海表ニ儵ヘ恭誠事ヲ效シ輔弼之レ倚ル重厚ナル其人赫耀タル其勳聲望一世ニ隆シ今ヤ溘焉トシテ長逝ス焉ソ軫悼ニ堪ヘン茲ニ侍從ヲ遣シ賻ヲ齎シテ臨ミ弔セシム

講和提議書傳達

米國大統領より聯合國側へ

華盛頓來電＝國務省の發表する所に依れば同省は獨逸講和提議の公式文案を落手したるが同時に伯林駐在米國代理大使グレート氏の獨逸宰相が今回の提案を爲すに至れる徑路の概畧を記せる秘密報告をも落手せり大統領ウヰルソン氏は提議書に何等の公文をも附加すべき模樣なく而して同提議書は早速東京及び其他の聯合國首府駐在米國大使宛に發送し聯合國政府に傳達せしめらるゝ事と解せらる(紐育電報)

講和と米國の態度

米國は獨逸の講和提議に對し永久平和確實なりと認めざる限りは兩者の間に立ち斡旋の勞を執らざるべしと(桑港電報)

加奈陀より英本國へ

奮然として戰爭を遂行せん

オッタワ來電＝加奈陀首相代理フォスター氏は英國首相ロイド、ジョージ氏に對し加奈陀政府は閣下及び英本國と相提携して最後の勝利を收むる迄斷然として戰爭を遂行すべしとの電報を發したり(紐育電報)

友常議員失格

栃木縣選出政友會代議士友常穀三郎氏に係る選擧法違反事件は十五日大審院に於て當選無効の判決ありたるを以て次點者として憲政會派の大久保源吾氏當選すべく右の結果議員數は政友會百七名憲政會百九十六名となるべし(東京特電)

勝田氏の藏相親任を慶ぶ

朝鮮銀行理事 木村雄次氏談

勝田主計氏大藏大臣親任の報を齎らして朝鮮銀行に木村理事を訪ふ談に曰はく

▲寺内伯内閣 を組織さるゝや氏は今次の内閣は誠意ある内閣なれば予は國家の爲めまた誠意を以て之れに赴く可く一身上の如きは素より顧みる處にあらずと語られたり之れ三度の次官に甘じ決然就任されたる所以なりしが今回愈大藏大臣の親任を見たるは御同樣慶賀の至りなり後輩余の如きが大臣を品隲するは僭越の極みなるも強ての御求めなれば且つは私淑措かざる大臣の事なれば余の眼に映じたる一二の點を御話し致す可し若し大臣の性格を謬ることあらば其の罪死に當るべし余が大臣の知を受けしは大臣が

▲理財局長時 代にして隨分遠き昔なるが敏達の性と遠大の思想とは忽ち余が仰慕の焦點となり密に以て師とす可しと爲し來東上の都度門を叩いて教を乞ふに必ず獲る所あり鮮銀總裁として四時其の謦咳に接するに及びては欣幸措く處を知らず敬仰の情更に切なるものあり蓋し大臣は心細くして膽大なり事を計畫するや常に深思熟慮些末の點と雖も苟もすることなし然れども成算一度成らば勇往邁進百難を排し萬難に堪へて倦くまで

▲之れを完成 せずば止まず人或は其の遣り口を見て猪突の感を懷くものあらむも其仕事には必ず根底あり之れ氏の計畫にして往く所成らざるなく行ふ處可ならざるものなき所以なり又た大臣は非常の勉強家なり常に眼を英米佛の書籍に晒らし其の新聞雜誌の如き亦座右を離さず絕えず世界の大勢に通曉して以て其の機運の捕捉に努め大臣嘗て國債課長たりし際露國に使して具さに同國の經濟金融其の他百般の狀況を視察し歸來之れを時の首相に

▲桂公に報告 せるに公其の思想の遠大にして夙に世界の大勢を達觀せるを驚嘆せりといふ大臣の如きは實に世界の學者たると共に其の學識を活用して餘蘊なしと謂ふ可し大臣は身を持する極めて謹嚴にして温容の裡にも人の狎れ得ざる威嚴あり然れども物に表裏なく人に對して城府を築かず殊に同情心に富み好んで人の世話を爲せり朝鮮銀行總裁當時の大臣は同行を以て海外銀行とし其の世界的發展に向つて種々畫策する處あり留任久しからずして東上を見たるは鮮銀に取りては遺憾に堪へざる所なるも大臣に取りては今日ある所以にして吾人は其の榮達に對し滿腔の誠意を以て祝福の微衷を致さゞるべからず

東清線輸送制限

東清鐵道寬城子並に哈爾賓に於ける滯貨莫大に上り同鐵道にて輸送力を制限し居る爲め朝鮮發東清線經由貨物は一日一車二十六噸以上の發送をなす能はず鮮鐵にても荷主に對し制限をなし居れりと

南鮮守備隊の大邱集中

本年中に大部分引揚

軍隊教育並に經理上の關係より大邱の兵營並に陸軍官舍の工事進捗すれば南鮮各地に散在せる大邱第八十聯隊の守備隊は漸次集中を行ふ事に當局の方針既に決定しゐたるが最近兵營も大部分出來し新營未成のものは之れを鮮屋に收容する事となり本年中に第八十聯隊第一大隊第三中隊(晉州)第二大隊第七中隊(全州)第三大隊第十二中隊(釜山)の四地四個中隊を除く外全部引揚げ隊名及び隊長は左の如し

第一大隊本部(順天) 笹倉少佐
第一中隊(居昌) 大津山大尉
第二中隊(南原) 松本大尉
第四中隊(順天) 笠原大尉
第二大隊本部(光州) 伊藤少佐
第五中隊(茂長) 世良大尉
第六中隊(海南) 中村大尉
第十一中隊(安東) 鳥飼大尉

右の如く集中するものなるが第一大隊本部(順天)及び第二大隊本部(光州)は大隊本部のみ大邱に集中し中隊は前記の如く兩地に駐まる譯なり

咸北鰊漁旺盛

十一月中雄基、西浦項方面に續きて城津近海に鰊の豐漁ありしが清津方面にては當時僅少の走りを見るに止まりき、然るに同月三十日朝に至り俄然群來し沿岸に布敷せる角網に大中形を混じて約十萬尾の漁獲ありて以來每日約同額の漁事を繼續しつゝあるが鰊來游の模樣は雄基方面の如く一時に大群を見ず且つ其の日の狀況に依り或は西岸に多く或は東岸に多く等其位置一定せざると共にまたその形體を異にせり、而して漁獲は角網約二十統を主とし此の外二統の地曳網に依りて本月六日までに四十二萬七千餘尾三千二百七十餘圓の漁獲あり漁獲の鰊は悉く之れを鹽藏とし奥地方面に仕向け居れり

位記傳達式

長谷川總督は十六日午前十時三十分總督室に於て位記傳達式を擧行し藤波通譯官侍立の下に侯爵李海昇氏に對し左記の如く位記傳達式を擧行したり

敍從四位 正五位侯爵 李海昇

朝鮮を去るに臨みて

思念す、朝鮮銀行の將來を

拓殖銀行頭取 木越理庸氏談

明治四十二年朝鮮銀行の創設さるゝや、予は故市原總裁以下理事監事の諸君と共に推されて同行重役の一員に列し、爾來重任三回行務に執掌すること前後九年に及び。然るに今回任を拓殖銀行に轉じ住みなれし京城を辭して久しき友人知己と袂を分つの止むなきに至る。哀別離苦の情轉た切にして朝鮮の山河は長へに予が念頭を去ることあらざるべし顧みれば我朝鮮銀行は其の創立當時に在りては單に韓國中央銀行として鮮內金融機關の中軸となり、傍ら一般行務に執掌して以て朝鮮財界の開發に貢獻し來れるに過ぎざりしが、以來行務日に上り成績比年顯著にして遂に多大の發展を告げ、今や其驥足を遠く露、滿の天地に伸ばして露支金融の要路に膊り、滿洲の如きは同行金券の流通高數十萬圓を算し、又露國に對しては其の關係の密接なること日本各種銀行中比肩するものなき狀況に在り。殊に內地に向ては手を有ゆる大銀行と携へ其金融に資すると共に一面に於てはシンヂケートの一員として內外公債の事に當り、一面には爲替業務を開いて以て氣脈を倫敦、紐育、ペトログラード等の如き大金融市場に通ずる等世界的大銀行の素質全く成れりと謂ふ可く、其の銀行券發行高の如き創設當時に於ては僅々一千萬圓內外に止まりしもの、最近に在りては四千六百萬圓を突破し將に五千萬圓に達せむとす。而かも斯の顯著なる發展は同行の位置を躍進せしむると共に、收むる處の利潤愈增大して世界的金融舞臺に活動するの餘地益多きを加ふ可く、同行將來の進展發達洵に刮目に値すと謂ふ可し。惟ふに同行をして今日の隆昌を致さしめしは一つに歷代の總裁其の人を得たる所以にして第一次總裁に英俊故市原盛宏氏あり、第二次勝田總裁は留任久しからざりしも敏捷活達の才を以て、遠大の思想を實現す可く百方畫策する處あり、之に加ふるに近く赴任を見る可き第三次總裁美濃部俊吉氏は久しく拓殖銀行總裁たりし夙に手腕家を以て鳴るの人なれば同行の今後は更に瞻目す可く眞に世界的大銀行として金融市場に活躍するの日も遠き將來にあらざる可し。

鐵道荷動概況

十一月下旬分

本旬の貨物輸送狀態を見るに發送噸數六萬五千百六十二噸收入十八萬四千六百四十四圓にして之を前年同期に比較するときは數量に於て四千六百三十五噸(七分)收入に於て四萬一千百五十三圓(二割九分)の增加を示せり本旬中出荷の主なるものを揭ぐれば次の如し

順位	品目	噸數	順位	品目	噸數
一	米	一五、三三六	一一	黑鉛	八三七
二	石炭	八、八三一	一二	木炭	八二八
三	大豆	八、五〇五	一三	石油	六一九
四	木材	二、四七三	一四	鹽干魚	六一二
五	鹽	二、二六八	一五	野菜	五二一
六	雜穀	二、一一九	一六	薪	三三二
七	鐵石	一、六八三	一七	明太魚	二九七
八	石材	一、〇〇九	一八	生果	二九七
九	綱叺	九六六	一九	牛皮	二五〇
一〇	豆粕	八九二	二〇	石粉	二二八

次に前年同期に比し增減の著しきものを擧ぐれば左の如し(△印は減を示す)

品目	增減噸數	品目	增減噸數
米	二、〇一一	黑鉛	六九〇
雜穀	一、〇八四	石油	四五一
鹽	一、〇二六	木材	△三三三
豆粕	八九二	鹽干魚	三二三
石炭	△七一〇	生果	一九〇

主要貨物の出荷概況次の如し

▲米 前旬來荷動活況を呈し殊に本旬に入りては出荷頗る旺盛にして一日平均千五百三十六噸を算し前旬に比し三千五百六十二噸前年に比し二千十一噸の激增を示せり是れ前旬に於て述べし如く米作の豐饒、相場の昂騰、船腹の不足及地租納期に際したる等の諸種の原因に依るものにして空前の盛況を呈せり

▲石炭 寒氣の襲來と共に暖爐用として需要多く前旬に比し三百四十六噸を增加せり而かも前年に比し七百十噸の減少を示せるは前年は海軍用炭の輸送多數なりし關係あるに因るもの也

▲大豆 前旬に比し千四百四十四噸を減じたれども尚一日平均八百五十噸の出荷あり總數八千五百五噸中內地移出最も多く三千八百三十一噸(四割五分)を占め

▲木材 季節の關係上本月上旬以來荷動漸次減退したると出穀激增し貨車運送の餘波を受けて輸送幾分遲滯の氣味あり爲めに本旬に入りては一日平均二百噸強に下れり

▲鹽 需要期なれば荷動依然衰へず總數二千二百六十八噸中仁川發の九百四十五噸最も多く鎭南浦發五百二十八噸にして他は釜山發二百二十四噸群山發百九十六噸木浦發百三十噸等を主なるものとす

▲雜穀 前旬に比し三百七十噸を減じたるも前年に比すれば千八十四噸の增加を示せり本旬に於ては安東を主とし沙里院、鳥致院發の小豆の荷動好況にして前月來殷盛なりし花子、小麥等の出荷は稍減退を呈せり

▲綱叺 穀類の出廻り旺盛なると共に本品の需要も頗る多く本旬に於ては九百六十六噸の多數を出荷し前旬に比し約百噸增加に當れり主として釜山、仁川、鎭南浦發 內地製品及伊院、鳥致院 [illegible] 發等なりとす

▲豆粕 船腹不足の影響を受け滿洲豆粕の內地直通輸送本月上旬以來漸々出荷ありしが本旬に於ては八百九十二噸の多きに達せり仕向地は九州を主とし他は山陽及信越線の一部なりとす

▲黑鉛 近時本品の需要增加せるに依り荷動頗る好況を呈し前年に比し約四倍の增加を示せり總數八百三十七噸中主なる發著驛別數量を擧ぐれば永興發元山著(海路內地行)四百六十噸 [illegible] 著二十五噸新安州發 [illegible] 著七十二噸新義州發 [illegible] 著二十六噸等なり

▲石油 需要季に入り荷動逐旬好況を呈し本旬に於ては六百噸臺に上り前年に比し四百五十一噸の激增をなせり主として海港地發にして釜山及仁川發其大部分を占む

▲鹽干魚 元山近海に於ける鯖の豐漁により本品の出荷多數にして總數六百十二噸を算し前年に比し約倍加せり

▲野菜 漬物時季に際したれば荷動活況を呈し一日平均五十二噸を出荷せり就中黃州發最も多し

要之本旬の貨物運輸は前旬に比すれば大豆、木材等に於て多少の減退を見たれ共米、石炭、豆粕等は多大の增加を示し更に之を前年に比較する時は石炭、木材等一二貨物を除きては米を始め雜穀、鹽等著しき增加を示し其他一般貨物も概ね幾分の進境を示せしを以て收入に於て約三割の激增をなし輸送成績良好なり

咸北出漁鱈延繩

咸鏡北道清津近海に昨今出漁せる鱈延繩漁船は內地人三十四艘鮮人五十艘計八十四艘にして十一月中の漁獲高は八千八百三十八圓一艘平均百五十圓に相當し昨年の同期に比して約倍加し居れりと(釜山)

電話規則一部改正

遞信局にては現行の電話規則に一部改正の必要を生じ目下矢野通信課長加藤事務官以下時々審議を盡しつゝあるが其の案の成るは明年なるべし

軍司令官記者招宴

既報の如く秋山軍司令官の京城記者團招待宴は十六日午後六時より花月に於て開催されたるが當夜主人側の重なるものは軍司令官を始め立花師團長、日水參謀長にて主客共三十餘名一同歡を盡して散會せしは十時過盛會なりし

人事消息

▲杉村陽太郎氏(北京公使館書記官) 十六日夜南大門驛通過北京へ
▲赤木萬治郎氏(平壤中學校長) 十六日夜入京 京城ホテルへ
▲柵瀨軍之佐氏(代議士) 同上天眞樓へ
▲青木德三郎氏(鹽治局技師) 十六日夜退京

南言北語

此の間突然獨逸の講和電報があると好況であつた東京の株式界は滅茶々々になつて遂には立會の中止となり ▲大阪でも恐慌の餘り當分立合停止となり三品取引所の如きは大騷ぎで狂人迄出したと云ふ何たる馬鹿さ加減だろう ▲一體日本の經濟界が國際的になつて株式金融關係が西洋の事情に迄關係して來た事は喜ばしいことではあるが ▲其れが又た唯一發の電報で斯うも大騷ぎをやるのは實以て情ない事だ ▲畢竟するに其等の人々が最少し平生注意を用ゐて能く西洋の事情を研究して居らぬからだ ▲初から萬事に注意して居れば此の樣な狼狽もすまい ▲此の樣な事が海外に聞ねては恥さらけ出すも同樣だ ▲孔子曰く唯上智と下愚とは移らずと ▲最も之れ位の事を知つて居るものなら左樣もあるまいに ▲成金になるのが得意と心得て居る銅臭人種には困つたものだ ▲其れは其うと新外相本野子は飯ケ關で『獨逸の提出した講和條件では聯合軍も頭を縱に振れまい』と明言して悠々煙を吹いて居る相な ▲此外相ありて國民は大に意を強うするに足る

日報新年詞壇

=募集課題=

漢詩 課題『丁巳新年口號』『遠山雪』 但し近體古體を問はず
短歌 課題『春の灯』(一人五首以內)
俳句 課題『お降り』(一人十句以內)
●(注意) 締切十二月二十日、用紙半紙型、京城日報社編輯局新年詞壇係に宛て投稿の事

政府黨組織運動

十八日の參議院議員改選に際し政府黨を作る爲め北京より參議院議員一名大金を携へて奉天に來り種々運動中なり(奉天特電)

公民會體血團組織

公民會一部の者は張督軍排斥に決したるが別に體血團を組織し運動員一名北京に急行せり(奉天特電)

張氏と日支親善

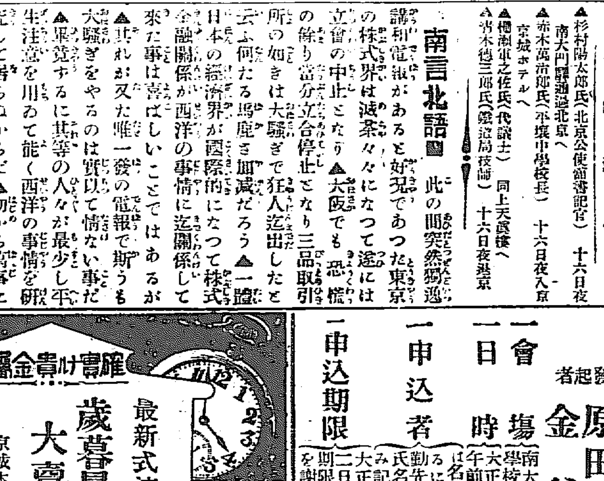
張督軍は近來頻りに日支親善の必要を稱へ居れり(大連特電)

總裁督軍訪問

中村滿鐵總裁は十五日奉天に赴き張督軍を訪問せる由なるが用件は不明なり(大連特電)

廣告

來る大正六年一月一日新年祝賀の爲め名刺交換會を開催し以て往𥘉の禮に代へむとす御贊同の諸彥は左記事項御承知の上會費金五十錢を添へ京城府庶務係へ申込まれ度し
大正五年十二月十四日
丁巳元旦京城名刺交換會
發起者 原田金之祐 金谷充
一會場 南大門公立尋常小學校構內
一日時 大正六年一月一日午前十時半
一申込者 は名簿調製上必要あるに付住所職業(在勤先を記入すること)氏名、原籍(府縣のみ)記入すること
一申込期限 大正五年十二月廿二日限り期限經過後は申込を謝絕す



新刊書御案內

書名	著者	定價
支那研究	服部宇之吉	一、二〇
教育行政及行政法	織田萬	一、八〇
增訂改版經濟大意全	田尻稻次郎	一、二〇
朝鮮司法提要	高等法院書記課編	特 九五
現代バルカン	長瀨鳳輔 內藤順太郎共著	一、二〇
江戶幕府の米價調節	本庄榮治郎	一、二〇
英國の經濟的勢力	堀川美哉	一、〇〇
密教綱要	權田雷斧	一、五〇
英語自修辭典	佐久間信恭	一、八〇
茶道必携大名物茶入類集	[illegible]	一、八〇
大正青年と帝國の前途	德富猪一郎	八〇
ペン手紙と葉書の書方	黑柳勳	八五
自我論全	紀平正美	一、三五
男一疋	岡村柴家	五五
徹底禪	秋野孝道	九〇
ワグネル物語	松山思水	六〇
兵營物語	須藤鐘一	五五
新兵さん	村上不二男	三五
水の流れ	小野寬一郎	六五
小說呪ひの月	井上雪江	五〇

京城本町二丁目 電話二〇八六番 振替京城二五七番 大阪屋號書店

京日案內
普通 一回前金 一行 [illegible]
男女事務員採用 十五圓以上外食費給
貸金月收者信用其他擔保秘密融通 吉野町一ノ一二 電二七七 皆川 927
電話讓受たし希望の方は電話五八四番に申込あれ 918 919
店員入用 京城南大門通四丁目 [illegible] 印刷所

◎配達人募集 二拾歲以上身體強健保證人を要す 北米倉町 [illegible] 929
◎小供守女入用 年三十以上五十歲迄希望者は直接來談あれ 仁川美濃谷 925
◎店員入用 但商業に經驗有者數名 京城青葉町三丁目百廿番地 大橋大三郎 926
料理講義錄正月號出來直に配本す新入會者ははがきにて御申込下さい 京城旭町一の三六 朝鮮割烹講習會
◎看護婦及見習看護婦數名入用 希望者は本人直接來談あれ 京城永樂町壹丁目 須古病院 908
◎讓店 賣藥化粧品小間物其他日用雜貨店にして獨特的の有利と共に前途多望の老舖也 姓名在社 887
番外 門松卸賣 拂下山林にして最適當のもの特別廉價にて御相談に可應候 京城南大門通 電話三八六番 三輪商會 900
景品付歲暮大賣出し 京城本町三丁目 電話二三一五番 橋本商店 928
御不用の蒲團綿類高價買入 京城若草町湯屋隣 電話二五四〇 ヒロセ 920
勸業債券買入致します 貯蓄債券 地方は書留郵送次第代金差上ます 京城長谷川町五八(朝鮮銀行橫) 日本勸業銀行債券月賦販賣所 541
◎質 勸業債券賣買致候 京城本町四丁目 電話一〇二二番 福田屋 922
◎銃砲火藥 自轉車 京城◎太田◎公州 瀧川銃砲店 854
◎質屋開業 新町(奇り口)十四番地 武內質店 914
◎銃砲火藥 獵具 京城本町三丁目電話二〇九二番 增戶銃砲店 916
恩給年金 立替 短期無保險並に勸業貯蓄債券買入 京城永樂町二丁目(金光教北手) 國江商會 830
恩給年金 利子年一割 即時取引退隱料一切 京城櫻井町(大正館向) 元祖 博多屋本店 852
恩給年金 三年迄無保險 即時 步二厘五毛 京城南大門外若松町 西鮮支店京義線沙里院 山口屋 廣川商店 843
銃砲火藥雜貨 京城南大門通三丁目電話五八三番 藤木商店 856
△獵期と魔法瓶 魔法瓶中瓶取替 京城本町一丁目 高木旅行用具店 884
猪肉大勉強 極新鮮品著一貫匁以上御値段 御注文は電話迅速配達 京城明治町 電一〇四二 石田本店 905
◎空間あり室內 湯殿設備完全親切丁寧 西大門中學正門前 電話二六二五 優翠旅館 906
◎質 有し勉強懇切に 弊店の特色は秘密を確守し完全なる倉庫の設備を御取扱申候 支那領事館筋 電話一〇九六番 南質店 909

光 ▲有力實業家會同 光州實業家の有力者は十五日商工 [illegible] 改良農具を使用しつゝあるは顯著なる事實にして道當局に於ても極力之 [illegible] より谷城長 [illegible] 潭陽光州四郡の農民 [illegible]

[illegible]意見の交換を爲す筈なるが其結果に依りて光電の起工期も決定すべしと
▲農具修繕講習會 鮮人農民が漸次[illegible]て修理に困り多大の運賃旅費を費して之を光州木浦に持參し修繕せざるべからず爰に於て道當局にては更に之が修繕の方法を講じ十五日[illegible]等講習生が歸郡の上は附近の農具[illegible]繕に當らしむべしと因に光州に於[illegible]講習會の成績に依り漸次他郡にも開[illegible]講習會開會の筈なり[illegible]合して[illegible]以下を招待し盛大なる送別會を開催する筈▲宮木長官出張 宮木道長官は來る廿五日本年始めて開始さるゝ[illegible]り▲今[illegible]格下げ七十五口[illegible]本道十五錢[illegible]を命せられ▲今村事務官は十六日午後二時著任▲[illegible]沼警視來往 警務[illegible]二州[illegible]道長官は十五日公州出發鳥致院を經て天安に到り同地より禮院迄自動車を驅り夫より[illegible]餘名を[illegible]に招待して披露宴を張れり席定まるや神田部長の鄭重なる挨拶に對し上林長[illegible]は來賓を代[illegible]頭京城黃金町二丁目電車線路附近に於て明治町一丁目森永敏一郎（二〇）及び仁寺洞居住東亞煙草株式會社の[illegible]

●是れ程立派なものは尠いと
李王家の秘苑を激賞
した夏目漱石氏＝舊式の鐵輪の人力車で
開城の名所見物＝矢野通信課長の追懷談

通信局通信課長矢野義二郎氏は故夏目漱石氏が例の小說「坊つちやん」で有名な松山中學校時代及び熊本第五高等學校時代に親しく薫陶を受け爾來二十年間、氏の人格に私淑してゐた人であるが明治四十二年の九月から十月にかけて漱石氏が京城に來遊された際には鐵道のために東道の勞を執り京城の名所を案內した事がある、當時を追想しつゝ氏は語つて曰く

夏目先生は二十年來私が師任してゐた方で先年京城に來られた時には京城市中を御案內したその時觀て廻られた主な所は昌德宮、景福宮、開城の陵墓、滿月臺、石坡亭、洗劍亭等だつたが朝鮮に來られる前に滿洲を觀られたせいか

◆朝鮮の風物 には餘り多くの興味を持たれなかつたやうで先生の口からその感想を伺はなかつたが唯李王家の秘苑にはいたく感心され共進會の庭園には隨分立派なものがあるが是程優れたものは尠ないなと激賞されてゐた、蠶島に行かれた時はその當時入京中であつた東朝の澁川玄耳氏も居られて今の京城鐵道の陶山道理官と私の四人だつたと思ふが、模範場で久次米技師が御自慢の

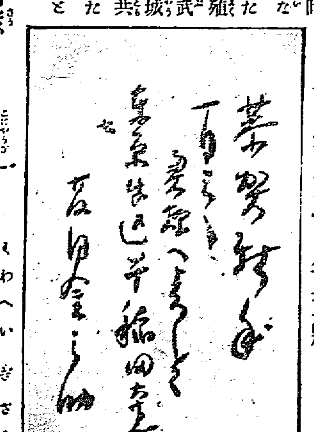
◆西洋梨を出して 勸めに侑められたがその時先生は私かに「久次米さんは西洋梨が旨い〱と言はれるが僕には矢張り日本の梨が旨いと思はれるね」と私に向つて言はれた事があつた、當時先生は胃を害して居られたし虎列拉の流行する時だつたので宴會なども斷られてゐたが故人になつた殖產局長の菊地武一氏の發起で京城ホテルで晩餐を共にした事があつた朝鮮に入られると直ぐに

◆先生の同窓 だつた小城技師が平壤に案內し、開城には坂出技師に私が案內した、坂出技師が開城行に加はられたに就いては面白い話がある、それは坂出氏は先生の作品に對して非常に興味を持つて居られる一人で先生の者ならば雜誌に載つたものまでも蒐めて居る位の熱心家であるところから先生も大變喜ばれ坂出氏と行を共にしたのである開城では例の鄭夢周で知られた善竹橋、滿月臺、紅蔘製造所等を見られたが何しろ當時は道路が惡く其上舊式の鐵輪の人力車で搖られて歩いたので

◆弱つた〱と言つて居られた、又或る時名前は憚るが或る所の奥さんが先生に向つて『妾は先生のお作を何時も面白く拜見して居ります』と言はれたのを聞かれて、あとから私に『矢野君僕の書く物があの夫人には本當に分るか知らん』と言はれたが先生はその時僕の小說を書く目的は

◆人生の眞理 を傳へやうとするので智識階級の人以外には解らないだらうと思ふといふやうな事を言はれた、東京へ行つた時はよく先生をお訪ねしたが最近伺がつた時、患者に臥つてる時などに面會人が澤山來て勉强を妨げられる事があるので面識の無い人は斷つてゐたが會はなければ歸らぬなどと座り込む人もあり亦書を揮毫せよと金を封じたりなんかして寄越しそれに應じないと非常に憤つたりする人があるので困ると言つて居られた

◆朝鮮で先生の 教を受けた人には土地調査局監査官の尾石氏稅務課長の水口氏などである鐵道の稻垣技師なども小城氏と共に學校が同じであつたさうである



夏目漱石氏の年賀狀

◉貨幣偽造
▽豫審決定す

昨年陰十二月から鮮人八名が共謀し釜山に於て五錢白銅貨を偽造せんとして準備中本年五月頃鎭海憲兵分隊鎭東派遣所の手にて檢擧されたる事件は釜山法院豫審にて審理中なりしが今回決定したり其犯人は▲釜山富平町二丁目鍛冶職松尾馬吉事河口角男（四八）▲釜山大新里李基柱（六八）▲咸安郡邑內捻山里羅億甲（三二）▲昌原郡北大峙里金聖蓉（五八）▲同郡同面同里金鳳培（四二）▲同郡吳加東仙里河吉出（三五）▲同郡同面同里李奧俊（四四）▲咸安郡內捻山里羅綾秀（三三）等にして通稱松尾馬吉事河口角男は昨年陰十一月中釜山富平町自宅に於て李基柱と同謀して五錢

▲白銅貨を偽造 せんことを企て馬吉は鍛冶職にして『カンテラ』の製造にも經驗ある所より偽造に必要なる器械地金の買入れ附屬器具の製造並に貨幣偽造のことを擔任し李基柱は主として資金の調達をなすべく凡ての準備を內密に取り定めしも資金は李基柱一人にて出資する丈けの資力なく他に適當なる出資者を物色中本年五月頃迄の間に前記羅億甲を仲介として金鳳培、金聖蓉、河吉出、李奧俊、羅綾秀と共謀の上同人等をして貨幣偽造に要する出資を分擔し又は出資の勸誘を爲さしめ李基柱は金四十二圓七十錢、羅億甲は金十圓、河吉出、李奧俊は各金七十錢を醵出し金鳳培は金廿圓を金聖蓉は偽造貨幣が出來上りたる後必要なる事を約し羅綾秀は其の出資勸誘の衝に當り河口角男は白銅貨偽造の附屬器械一

▲金額を出資する 式並びに主要機械なる『ポンス』及び地金を買ひ入れ既に製作に著手せんとするに當り資金調達の爲め鎭東附近にて密々運動中を前記の如く鎭海憲兵分隊鎭東派遣所に檢擧され其の器械が釜山に在る事を知るや直ちに釜山憲兵分隊の應援を受け一類を悉く逮捕し松尾方にて偽造用の器械一式を證據品として沒收し來りたるものなり此の主魁とも云ふべき李基柱は去る明治四十五年中某錢偽造の爲め晉州支廳に於て懲役二年に處せられ大正三年恩赦に依り減刑の上出獄したるものなりと（釜山）

◉露西亜の命の港
新らしく發見されたロマノフ港

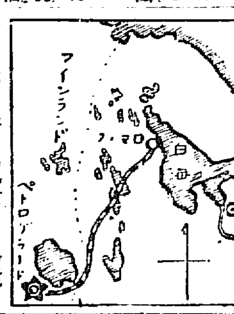
請和に關する獨逸の提議は徒らに聯合國の反感を挑發した許りであつて結局獨逸の提議は聯合國より拒絕されるは必然であらう、そうなれば云ふまでもなく聯合國は

■飽まで戰鬪 を繼續して最後の勝利を獲るまで戰ふで有らうが英佛露共に戰爭の影響は尠からず各其の社會に打擊を與へて居る英佛の食糧品缺乏物價の騰貴等も甚だしく其の政府と國民とを苦しめて居るが最も大なる苦痛を感じて居るのは露國である露は各方面の交通が

■全く杜絕 して僅かに浦鹽港と北海を迂廻して白海に入りアレクサンドル港より入るの二箇所より軍器軍需品の一切の貨物食料品まで供給を受けなければならぬ有樣であるが浦鹽方面は全部西伯利亞鐵道に由らなければならぬから其の輸送力は知れたものである一方北海を迂廻する航路は冬期氷結して船舶の交通杜絕するに至るから

■露國の苦痛 は益々加はるばかりであるが過般露國人は白海口に於て暖流の關係より終年氷結しないロマノフ港を發見した爲めに多大の希望を同港に繫ぎ同港とペトログラードとの間に鐵道布設の計畫を立てたが白海沿岸のフィンランド地方の低濕地にして多大の難工事なりしに拘らず

◉絕大の努力 を以て遂に此の程に至り同鐵道の開通を見るに至つたが之れに由つて露國は冬期間に於ても英佛と海上連絡を取る事を得て軍器食糧品の供給に受くるからロマノフ、ペトログラード間の鐵道開通は近時に於て頗る注目に値いすべき事實であらうと思ふ（某氏談）



◉若き婦人
强盜と格鬪して負傷す

咸南北靑郡泥谷面新上里居住人夫稼金順學（三二）は京城附近居住中高陽郡往十里居住の人夫林反秀（三二）と共謀し本年七月三十日午前一時頃高陽郡纛島面松亭里宮本定次郎方に侵入したる際同家の娘なを（二一）が目を醒まして騷ぎ出したるより林反秀は携へゐた鋭利なる匕首を以てなをに斬つて蒐り同女は匕首を奪ひ取らんと格鬪し左手を斬られたるが其の際起きて來たる定次郎の姿を見て逃亡し反秀は三十一日夕刻淸凉里の路上にて警察の手に捕はれ京城地方法院にて懲役處分となり順學は其後巧に姿を晦ましゐたるも此程前記[illegible]に於て北靑憲兵分隊直洞派遣所の手に逮捕され取調べの上咸北地方法院檢事局へ送られたり

◉大秤で
腦天を打碎く

鳥致院本町米穀商橋本丑太郎（三一）は去る十一日豫て面識ある鮮人より松附近に籾數百石の賣物ありとて買出さんと勸められたれば直に金三百六十餘圓を整へ午後同地に赴き同日は巡査駐在所近隣の酒幕に一泊し翌十二日賣主の許に赴かんと連れ立ちて七八町を距りたる小山の間に差蒐りたる際油斷を見澄ましたる該鮮人は所持の大秤量にて丑太郎の後方より腦天碎けよと許り打下し丑太郎は其場に打倒るゝや續いて亂打し同人の氣絕するを見て懷中の金を奪ひ其儘逃走したり然るに間も無く附近の農民が發見し大に驚き直ちに駐在所に訴へ出でたれば同所にては旨を淸州警察署に急報すると同時に被害者丑太郎を取敢ず駐在所へ擔ぎ込み介抱の末漸く蘇生せしめたり一方急報に接しだる淸州警察署にては早速非番巡査全部を召集し齋藤署長以下拾數名の搜索隊は臨時自動車を以て直ちに同地に出動し非常線を張りて徹宵搜索中なるも犯人未だ縛に就かず被害者丑太郎は直ちに淸州慈惠醫院に收容したるも生命覺束なし

◉熱湯に噴かれて全身に大火傷を負ふ

高陽郡纛島面纛島里鄭元植（二〇）は同里所在の京城水道水源地の臨時火夫見習として十三日午前七時四十分頃汽罐室第四號汽罐の前に於て焚火中水管の繼目に故障を生じたる箇所より僅かに噴き出したる熱湯の爲め顏面胸腹部右足兩手等に滅茶々々の大火傷を負ひたるが附近の安藤醫院出張所にて應急手當を受け目下總督府醫院に入院加療中なるが治療約一箇月を要すべしと

◉妙技 觀衆を醉はしむ
雲間の探檢者スチンソン孃の快飛行

米國女流飛行家スチンソン孃の飛行第一日は十六日午後一時より靑山練兵場に於て擧行されたり前夜の夜間飛行に於て壯快なる孃の飛行は滿都の人氣を喚りて開會前既に觀衆二萬と註せらる午後定刻に至るや孃はカーキ色の飛行服に身を固め機首を場の北方に向け忽ち機上の人となり折柄地上十米突の北風を受けて滑走十米突の後直に離陸するや機を急角度に上げ舵を執りて一直線に五十米突の空に上り昇騰形を描きつゝ四百米突の高度に上り暫時北風に流されつゝ更に八百米突の高空に上り兩翼より二流の白煙を吐きつゝ大波狀大傾斜を連續的に行ひたる後美事なる宙返りを行ひ更に小波狀を描きつゝ三百米突の上空より決死的急轉直下を行ひ五十米突に降り場空を一周し午後一時五十五分喝采裡に無事着陸同三時に至り得意の低空飛行を爲して快速の自動車と競走を行ひ之亦無事其技を終れり（東京特電）

◉一家鏖殺犯人
捕はる

既電の如く大阪府下西成郡柴村居住澤田宗太郎（四一）並に其の家族を慘殺したる犯人は西成郡豐里村の資產家楠原鹿次郎（三五）と判明し十六日京都に於て逮捕せられたり同人は發作狂なりと（大阪特電）

◉漁夫二名
凍死せんとす

原籍廣島縣安藝郡大屋村谷兼松（四二）長崎縣南松浦郡中通若松村高尾松之助（四二）の兩名は打瀨網漁船に乘込み釜山鎭沖合に碇泊中西方の暴風に遭ひたる爲め避難せしに船機破損の爲め押流され水船となり救助を求め居るを十五日釜山水產組合に急報せる者ありしより同組合にては直に紳谷技手其他の人々を江慶丸に乘込ましめ現場に急行し漸やく救助し午前十一時釜山港に歸航したるが漁夫兩名は寒氣の爲め身體の自由を失ひ居れるも生命には別條なしと云ふ（釜山）

贈答品には ちゝぬ銘仙
京城本町 ちゝぬや

◉明治屋の移轉賣出 キリン麥酒の發賣元明治屋支店にては營業の發展に伴ひ從來の店舖にては狹隘を感じ居りしが今回本町一丁目辻商店々舖を買受け店內の改修中の處漸々竣成し十六日より移轉開業の上其披露旁々一圓以上の買上の顧客に對し景品附賣出を爲しつゝあるが年末贈答品の季節の事とて頗る盛況を呈しつゝあり

▲京仁間の梧桐洞を流れてる小川に一本の橋が架つてゐる▲これは檜垣前京畿道長官が渡初めをしたので檜垣橋と命名されたが此間破損したので修繕して十三日の渡橋式を行ひ▲驛長里長等が發起し崔某といふ朝鮮人の高齢者を初渡りさせすつかり內地式に祝つたさうな▲さるカフェで落合つた年輩の二人が十五日に渡つた某廳の賞與金は例年より三割方多かつたとか又某銀行も此下半季は一箇月丈け多く吳れたとか前の皿の冷めるのも忘れて話してゐたが此頃は年の加減も忘れて兎角是れ沙汰らしい▲さる會食の席で『西洋音樂は意味の解らないのが困る』と言ひ出すと山縣ソールプレスが傑作を發して『それでは鶯や雲雀を意味で聽くのか』とあつたので一同『ナアル程』

▲▲キリンビール發賣元
明治屋移轉御披露

弊店儀大方諸彦の深甚なる御愛顧御引立に依り御蔭を以て日增し隆昌に相赴き居候段感佩に不堪候從而從來の店舖にては何分にも不整頓勝ち且つ狹隘を相感じ候に付本町一丁目辻屋商店々舖を買受け店內改修工事中の處漸く竣成諸般の準備相整へ申候に付來る十六日より移轉の上一層奮勵營業致候條何卒倍舊の御引立あらん事を奉希上候

移轉御披露の爲めに □一圓以上御買上□の方に景品提供□

就ては移轉御披露旁聊か平素の御恩顧に相酬ひ度來る十六日より三十一日迄左記景品提供年末御贈答品の賣出開始致候に付ては何卒多少に不拘御用仰付被下度尙新奇の御贈答用好適品も多數取揃へ陳列御撰擇の便に相供し申候間是非御光臨の上御尊覽の榮を賜り度伏而奉願上候

景品々目及等級（御買上金額壹圓每）
一、壹等 女持懷中金時計　一、五等 洋酒
一、貳等 金指輪　一、六等 鳳凰ミルク
一、參等 銘仙反物　一、七等 キヤラメル
一、四等 洋酒籠入

宮內省御用達
朝鮮京城本町壹丁目二十八番地
株式會社 明治屋京城支店
電話長（二一二二）番 振替貯金口座京城四四番

胃腸最新藥
チゲスチン
日本英米十三ケ國專賣特許
胃腸疾患、食慾不進、重病後の恢復期、營養補給の目的にて肺の疾患小兒の營養不良等に賞用せらる
常用すれば血液を增し精力を盛んにす
◎說明書進呈
東京本町 藥種問屋 合資會社 圓城商廈

廣告
購買入札
大豆七百六十石 京城、西大門監獄納
右購買ス細詳ハ大正五年十二月十六日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ
大正五年十二月十七日 朝鮮總督府

榮養ヲ增進シ 精力ヲ旺盛ニス
グリコナール錠
本品ハ醫學博士佐伯矩先生ガ創製セル榮養劑ニシテ五〇%ノグリコゲーント蛋白脂肪、越幾斯分ノ過量ヲ含有ス
一般虛弱、心臟機能衰弱、胃腸病、結核其他慢性病者等濃厚滋養料ノ充足ヲ要スルモノニ對シ榮養ヲ增進シ精力ヲ增加ス 百錠金壹圓＝各藥舖ニ有リ＝說明書進呈ス
東京室町 三共株式會社

十二月十一日より三十一日迄
福袋付歲暮大賣出し
御買上金壹圓每に不公平無く差上候
京城本町二丁目 (松) 松菊屋小間物店 電話二四六三番

怒濤の月

二十四 小林蹴月作 武内桂舟畫

間一髪 『五』の四

「……絹代は、什うしてもそんな女ぢやない。彼の悲慘な家庭に育ちながら、竹の如き貞直な柔順しい性質を、押曲げられずに來た彼の絹代が、僅か半月とも經たん間に、譬ひ、どんな境遇の變化があらうとも、今村山君の言つたやうな浮薄淺忍な女に變化しやう筈はないのだ。村山君は、本人の顔容さへ見た事がないんだから、只一途に現代式ハイカラ娘の虚榮心と同樣に見做して、物事を速斷して了ふから、然う思ひ込んだのも、無理はないけれども……」

一雄の面前では、彼れほど立派に男らしく誓言して置ながらも、幸三郎の腹中は、倘飽まで斯うした我が田に水の迷ひ心が、拗執くも執拗く附き纏つて居るのであつた。——彼れまでに親切を盡くして呉れる村山を欺いては濟まんが、自分としては什うしても一度丈本人の絹代に會つて、眞實の意向を確かめて見ぬ内は、斷念めが付かない——一念それのみを思ひつゞけて、蒲團の上に身を横へて居る内、所謂考へ疲れと病氣疲れとが、彼の攪き亂れたる腦神經を抱き包んで了つたのであらう。眼にはまだ判然と枠張の墓仙人を凝視めて居ながら、魂のみが段々低い谷底へ引卸されて行くやうな、遣い〳〵恍惚とした氣分になりゆいたのである。天井の鼠も勿論鎭り返つて、五燭の電燈ばかりが、欠伸のお交際でも爲たさうな茫乎然たる光を投げて居た。

『阿兄さん……倉橋の阿兄さん、お邪魔でせうが、お眼を覺まして頂戴!』

繊い眞綿のやうな手で、徐かに幸三郎の肩を揺ぶる者があつた。

『……だ、誰です。今僕を起したのは……?』

幸三郎は、その突然なのに驚いて繊く眼を瞬きながら、枕から頭を離した。瞳を据ゑて、よく〳〵見定めて見ると、今朝お袋が講屋敷から貰つて來て、口の缺げた瑠璃南京の花瓶に活け込んで呉れたコスモスの花を背にして、悄然と其處に坐つて居るのは、疑ひもなく許嫁の絹代であつた。

『ヤッ、お前は絹ちやんぢやないか』

幸三郎は、斯ういつたぎり、開いた口が塞がらぬまでに吃驚して居る

『阿兄さん、今の苦痛から、妾を助けて下さい』

絹代は、襟元までも雪のように塗つた白粉の顔を、極りわるさうに心もち擡げて、限りなき哀れと、限りなき淋しさと、限りなき悲しさとを含んだ涙の眼元に、昵と幸三郎の面を凝視めた。

『なに、今の苦痛から助けて呉れ? 絹ちやん、そりや僕の方からお前に頼む語ぢやないか。聞けば、お前は原町の北泉男爵家へお嫁入り爲たと云ふ噂さだが、お前のやうな美人に生れ付いた女は、それで一生涯を華美贅澤に送られるから、是に越した幸福はあるまいけれども、苟めにも絹ちやん、お前と僕とは、親々の許した夫婦なんだらう。それだに、僕の方へは、本人のお前から一言の斷りもなく、男爵家へ行つて了ふと云ふのは……絹ちやん、僕は必ずしも女々しい未練心や、嫉妬的の根性から言ふんぢやないが、現代の女は然うしたものかと思ふと人生貧苦にまさつた胸中甚ないものは有りや爲ないね」

幸三郎は云ふまでもなく、極度に激したる顔への波を聲に打たせて、息さへも繼がずに捲しかけたのである。

『あれ、阿兄さん、貴郎は一概に然う被仰るんですけれども……妾には妾で、立派に申譯の立つ事があるんで御座います。後生ですから、今の妾の苦痛を助けて下さい。』

絹代の割合にぱつちりと爲た涼しい雨の眼からは、瀧のやうに涙がこぼれた。

『申譯なんか聞く必要はありません。虚榮と云ふ黴菌に喰ひ込まれて了つたお前の身體を、川へでも海へでも投げ込んで了つて、更に親に現世へ生れ代つて來たなら格別、そのやうな穢はしい精神の女と、語を交すのさへ、僕は益々頭痛が烈しくなつて來るばかりだ。は、早く男爵邸へ歸つて下さい。』

幸三郎は、意地になつて我鳴付くるのであつたが、流石にそれでも手をかけて突き出すほどの荒々しさも爲し得ないのである。

寫眞は 龍山軍司令部前 ◎山崎 電話六一六番

花柳病 皮膚病 須古醫院 京城府永樂町一「商品陳列館通坂の上 電話二一〇二番

京呉服 京部 たまや出張店 永樂町一丁目 電話一一九六

移轉診療 京城南大門驛横二見旅館内にて診療中の處患者各位の御便利上長谷川町 安東病院外科室に 十二月一日より移轉從前の通り診療に從事仕候 肛門病 痔疾 注射 專門醫院

愈々寒さ來れり 冷性で御困りの御方は 津村本店の 人參エキスを 御存知無き御方でしよう 京城本町一 電話一四八〇 振替三五一一 津村兄弟商會本店

◎書畫骨董糶賣 佐々木聚古堂にては十六日壽町原金旅館樓上に書畫骨董屏風卷物料紙文庫等百餘點を陳列し十七日糶賣に附する筈なるが重なる品目は左の如し

明仇英南美人▲岡田半江山水▲子昂馬卷▲荻翁蘭竹▲柳里恭南畫子祇南海贊▲即非達磨自畫贊▲日根對山双幅▲雪舟左右山水三幅對▲乃木大將二行書▲狙仙猿▲介石山石▲梅逸花鳥双幅▲山陽額▲寛齋額▲唐村推樂觀音▲同佛像▲同中央卓▲同龍彫掛額▲仁清獅子香爐▲青磁鳥香爐▲赤繪角形花生▲同爵漢模樣中皿五人▲唐村段紋平卓▲青貝平卓▲同机

□水原華城會句集 各郡守前任日曜常務宗匠 秀逸

いつ迄し竹屋根走る物の香 知足
水鳥や沖の小島の朝朗ら 五曉
山茶花や世醉たつぷりの[illegible] 雉城
身賦に孫も手傳ふ蒲團かな 秋風
旅の主来一終の[illegible]かな 宙外
[illegible] 雉城
山茶花や軒に古びし金燈籠 まし
水鳥の羣につながる[illegible] 秋竪
水鳥に追首[illegible] 堤風
山茶花や野山も寂の[illegible] 如雲
山茶花に一つ瑞のある名句哉 秋風
閑先に水鳥のせて入る江哉 同人

五 客

石段を踏んで寂きの響き哉 讀石
眞心を包む[illegible] 秋風
山茶花にまとまる冬の日脚かな 宙外
雨つきて一入寂き夜也 五曉
[illegible] 仙竹

新刊紹介

◎最新賞話獨探(松本慶之助譯)歐洲大戰前獨帝が英國に入り込ましめたる約六萬の偵探中の一巨魁が秩猾、卑劣、陰忍にして且現代の科學的智識を有せる二名の部下と共に英國を初め聯合國の凡ゆる秘密事項を手に入るゝ事に努力せる戰慄すべき惡辣兒並なる手段方法を驚力ある筆に描寫せるものにして探偵奇譚冒險小説以上の波瀾曲折に富める事實は人をして卷を掩ふ能はざらしむるものあり(六十五錢東京市日本橋區本町三博文館)

▲湯屋の規定に御入浴の際はまへうしろをよく洗ふ事と書いてあるのに何處もよく洗はずに飛び込む無性者がある之等は二十前後の若者に多いようだが第二の國民として心掛が惡い(老賢人)▲當紙讀者文藝の紙上に發表された分では京城を除いては龍山と龍岩浦とが最も多い、今年はタツ年だから龍の字の付いた所が發展したのだらう、然らば來年は何處が筆頭かな(好文家)▲京城郵便局の横本町への入口は急に狹くなつて居る爲め兎角問題が起り易いが取擴げる譯には行かぬかしら(俥車夫)▲昨日の夕方擔軍が二人朝鮮銀行の前で賃金の分配で喧嘩を始め商賣道具のチゲを往來へ投げ棄てゝ罵り騒いで居たが電車から降りた一人曰く『彼奴等は不良少年にチゲエねエ』(電柱生)▲新設道路が若草町に交叉した處は道が凸凹になつた上燈火が無いから夜など電柱に突き當りそうだつたりして通行人はずいぶん迷惑をする(索町人)

商況

大阪期米(十六日)

▲十六日後場(大引)

	當限	中限	先限
寄付	一五、九七	一六、二五	一七、一五
高値	一五、九七	一六、三四	一七、三〇
安値	一五、九〇	一六、二五	一七、一三
[illegible]	[illegible]	一六、二五	一七、一六

▲手仕舞多し 此處年末と明休日を控へ居る爲にて[illegible]保合[illegible]に敗會[illegible]すゞ[illegible]七十一錢と寄値に返し七十錢丁度と[illegible]押目は玄賈物多く無理にも押さ[illegible]

▲後場の手振 重なる商内は[illegible]五千餘石[illegible]二千餘石等[illegible]各千餘石等に對し買方[illegible]三千餘石[illegible]各二千餘石[illegible]各千餘石等にて他は小口商内であつた

▲のき[illegible] 今後[illegible]

▲格付發表 十一月限受渡し米一萬七千八百石三石五千六百叺にして是が格付本日發表したり即ち左に
古米 十五日 七千五百十七叺
格上げ 十一日 十錢上げ
同 [illegible]

頻繁なるの時に際し歐亂講和問題にて株の影響を受け急騰大暴落を報じたるも後場は反動高を報じたる等例年より高下更に荒らく然るに當地は腰報せし如き事情にて存外大阪の高下に附隨せず小範圍に高下を繰り返し[illegible]

十二圓八十錢忠清[illegible] 二圓三十錢江華[illegible] 二、三百叺出來たり[illegible]

▲通津大豆八圓二十錢忠清大豆七圓九十錢より[illegible]

十六日の二月限

後場寄付	十二圓七十一錢
止値	十二圓七十錢
[illegible]	十二圓七十一錢

十一月限 二百石
十二月限 一萬九千三百石
一月限 十三萬四千五百石

●暴風警報(十二月十七日午前[illegible])

かぜつね 最良の藥 カキヤピリン
◎面白い程よくきく良藥なり◎ かぜは藥必ず本劑を服ご定て常に家庭に備ふべし かぜの氣味あらば從是も手遅せぬ樣直ぐ服用せよ 風邪頭痛に卓効あり 小兒には專用の小兒カキヤピリンあり
◎アンチピリン ファンアセチン アンチヘブリン アスピリン 等類似の他品あり
定價 五錢 十錢 二十錢 一圓
本舖 名古屋京町二 荒川長太郎

白毛染 君そめの代
一品質も評判も賣行も一番よい しらが染君が代 何が故に一番よいか? ▼染方手輕▼毛質を損せず▼光澤を帶びる▼染色長く褪せず
好評ある「別製君が代」は液体にして使用方一層便利なれば是非一度御試みを願升
本品は至る處の有名藥店化粧品店にあり
定價 別製二十八錢 特製大四十五錢 小二十五錢
東京市淺草區藏前片町一 本舖 山吉商店 電話下谷二八八二 振替東京一九三七二
關西代理店 伊藤朝日堂 振替大阪三〇〇 電話東一七四四 六六六七

りん病 ばい毒 請合
京城南大門外停車場通り ドラッグ商會滿鮮本部
詳細ハ昨日ノ本紙ヲ御覽ニ任ス物アリ御注意

MEP 品質本位

贊化病院 京城本町二丁目 電話二四〇番
內科 小兒科 入院隨意
醫學博士 古城憲治
無料施療す 毎日五名を限り
同 醫學士 上野亮藏

營業品目
罐詰 乾物 海産物 清酒 銘茶 漆器 家具
文具 紙物 荒物 履物 金物 陶器 磁器
鹽鮭 鹽鱒 棒鱈 數の子 日刺 昆布 鰹節
十六寸豆 金時豆 鶉豆 空豆 蒲團綿 中入綿 小袖綿
會席膳 吸物椀 重箱 鏡臺 箱火鉢 炬燵 飯櫃
三寶 御宮 飯蒸 今呂 ストーブ 茶瓶 鍋釜
津田兄弟屋本店 仁川新町 電話七六二番 振替口座京城三八九番
津田兄弟屋支店 仁川宮町
津田兄弟屋支店 京城本町